

2025

第64回 関東甲信越静地区
造形教育研究大会山梨大会

研究紀要



未来をひらく原動力＝アートの力

～“発見”と“感動”のある授業づくりを通して～

日時:2025年11月15日(土)

会場:甲府市立南中学校



目 次

祝辞	2
大会日程	6
会場図	10
大会宣言	14
基調提案	15
提案者等一覧	30
分科会提案	33
協議の柱一覧	52
あゆみ	54
規約	56
組織図	58
協賛企業	59

祝　辞

祝 辞

関東甲信越静地区造形教育連合 理事長
立川市立立川第五中学校 校長
渋谷 里美

令和7年度第64回関東甲信越静地区造形教育研究大会山梨大会の開催、誠におめでとうございます。これから社会は予測困難な時代といわれ、今までの経験値だけでは園児、児童、生徒の育成に対し対応していくことはできません。柔軟に様々なものを取り入れ、活用し、展開する力を身に付けさせるために、造形教育の意義である想像力、表現力を最も育成できる教科であること、それを育成する役割を担っている先生方であることを広く伝えていくことが重要だと考えています。

本研究大会のテーマである、「未来をひらく原動力＝アートの力～“発見”と“感動”のある授業づくりを通して～」では、発達段階に応じて4つのテーマがとても魅力的です。ワクワクやドキドキやキラメキやワンドフルの言葉からも、それに関わる園児、児童、生徒たちの目の輝きを想像するだけで、期待度の高まりを感じずにはいられません。本来の姿である手や体で感じることから始まり、自分の感性を働かせて表し、思いを表現するだけでなく感じ取り、さらに感性を高めさせ意図に応じて見方・感じ方を深めさせる。成長期のなんでも受け入れることのできるこの時期に、造形教育の真の学びを感じ取ることのできる重要な機会だと思います。

図工、美術に関わる教員は一校一名程度であり、孤独を感じがちです。同じ志をもつ教員の学ぶ機会は数多くありません。切磋琢磨しながらより良いものを与え、学びを深めさせたいと思う気持ちは皆一緒です。造形教育の日々の活動を通して、目の前にいる園児、児童、生徒に、これから社会で立ち向かう心豊かな人としての成長を願うばかりです。

結びに、本大会を開催するにあたり、文部科学省、山梨県教育委員会をはじめ、各教育関係団体より多くのご指導とご支援をいただきましたことに、深く感謝申し上げます。また、本大会でご指導いただいた諸先生方、ご参加いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

山梨大会開催にあたり

関東甲信越静地区造形教育研究大会
山梨大会実行委員長
甲府市立南中学校 校長
深澤 勉

「第64回関東甲信越静地区造形教育研究大会山梨大会」が、文部科学省教科調査官をはじめ、各都県で造形教育に携わる多くの先生方を山梨県甲府市にお迎えして開催できますことに、心より感謝申し上げます。

山梨大会の実施に当たり、2つの目的を設定しました。一つ目は「造形教育に関わる教員は、生きる力に直結するアートの力を育成できる素晴らしい教育に携わっている」ことを再認識する機会とすることです。V U C Aの時代を迎えた今、豊かで健康的な人生を送るため、自ら考え行動し生き抜く力が求められています。子供一人一人の〈私〉にしかない感覚や感情を基に体を動かせ、創造的に意味や価値をつくりだす力＝アートの力が「未来をひらく原動力」となると考えます。研究の方法論として【学びの構造図】の「感じ・考え・試みる」を基に、“発見”と“感動”的ある授業づくりを提案します。

二つ目は少人数の教員でできる最大限の大会運営を目指すとともに、県下の造形教育の継続発展に向け、教員間の新たなネットワークを構築することです。前山梨大会時の半分以下まで造形教育に携わる教員数が減っており、大会のスリム化が急務です。式典や記念講演等はネット視聴とし、分科会のみ参集で半日開催としました。また、各校一人の図画工作科主任や美術科教員が、他校の研究実践や情報を共有できるネットワークづくりにも取り組んできました。今後、教員減少の流れは本県だけではなく関東・全国に広がると予想され、山梨大会運営が課題解決の一助になることができれば幸いです。

結びに、本大会を開催するに当たり、ご指導を賜りました文部科学省、山梨県並びに甲府市教育委員会をはじめ各教育関係諸機関、関東甲信越静地区造形教育研究大会事務局の皆様、運営に携われた各都県関係者の皆様、本大会研究にご指導いただいた諸先生方に厚く御礼申し上げます。

祝　辞

文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官

小林 恵代

第64回関東甲信越静地区造形教育研究大会山梨大会の開催誠におめでとうございます。

今、まさに次の時代の学習指導要領の改訂に向けて、検討が始まっています。そのような中、資質・能力の育成に向けて、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を行い、授業づくりの基盤を確かにすることが求められています。

本日は、「未来をひらく原動力＝アートの力～“発見”と“感動”のある授業づくりを通して～」の大会テーマの下、授業実践を基に、子供の姿を通して、活発な提案、協議が行われることと存じます。

「発見」と「感動」は、子供が感性や想像力を働かせるために、重要なものです。感性や想像力は、受け身ではなく、対象や事象に自らの能動的な行為で関わるときに働くからです。例えば、自分の手で様々な色をつくりだしているとき、子供は、色はこんなにも多様にあるのだと気付き、自分の世界を広げています。粘土に体ごと挑むときには、冒険に出かけるような気持ちで、変化する形を楽しみ、想像を広げているでしょう。その時子供の心は、新たな発見をし、感動しているのではないでしょうか。

感性や想像力を働かせる子供の姿とは？造形的な視点を持って活動する子供の姿とは？意味や価値をつくりだしているとき、子供はどんな姿なのでしょうか。具体的な姿を思い描き、目の前の子供を見つめ、その実際を明らかにすること。それは、日々子供と関わる先生方だからこそ、できることだと思います。今日ご参加の先生方で、一緒に考えてみませんか。子供たちの生きる未来を。

そうして、未来を拓く子供たちに、造形教育の豊かな学びが必要であることを、力強く宣言する大会としていきましょう。皆でつくりだす本大会の成果が、日々の授業改善に資するものとなることを心よりご期待申し上げる次第です。

最後になりましたが、本大会の開催のためにご尽力いただきました関係者の皆様に感謝申し上げますと共に、それぞれの研究会等の一層のご発展と、皆様方のご健勝を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

祝　辞

文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官

平田 朝一

「第64回関東甲信越静地区造形教育研究大会2025山梨大会」が開催されますこと心よりお喜び申し上げます。

先生方におかれましては、山梨県をはじめ各地域の子供たちのために、研究会の実施や授業改善等に取り組んでいただき感謝申し上げます。

本大会では、「未来をひらく原動力＝アートの力～“発見”と“感動”のある授業づくりを通して～」をテーマに、これまで各学校で先生方が大切にされてきた教育活動の意義を再確認し、子供たちの姿に着目して、“発見”と“感動”的な場面を意識しながら授業づくりを行うなど、子供たちの学びを大切にした研究が進められてきました。今回の研究で、この“発見”と“感動”からどのようなことが起きたのか、ご参加の皆様には研究内容やそれぞれの実践等から読み取り、各地域の今後に生かしていただきたいと思います。

今の子供たちやこれから誕生する子供たちが、成人して社会で活躍する頃には、我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想されています。こうした中で、今回の研究を通して図画工作科や美術科で、子供たちは何を学ぶのかについて考えることはとても大切なことではないでしょうか。

また、中学校学習指導要領美術科の目標の柱書には、「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」とあります。生活の中で造形的な視点をもって身の回りの様々なものから美しさを感じ取ったり、形や色彩などによるコミュニケーションを通して多様な文化や考え方に対して思いを巡らせたりすることは、心豊かな生活を形成することにつながっていくと思います。

最後になりましたが、本大会の企画・運営に携わった皆様、校種別分科会で発表される先生方、本研究大会のためにご尽力された全ての関係者の方々に感謝申し上げますとともに、本研究会の一層のご発展と皆様方のご健勝を祈念いたしまして、祝辞といたします。

祝　辞

山梨県教育委員会教育長
荻野 智夫

「第64回関東甲信越静地区造形教育研究大会山梨大会」が、盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。

造形教育に携わり、子供たちの創造力や表現力、夢などを育てる活動を推進していただいている多くの先生方を、山梨の地にお迎えできましたことは誠に喜ばしく、心から歓迎申し上げます。

これまでも、各幼・保・小・中・高等学校の皆様方におかれましては、学習指導要領の趣旨を踏まえた特色ある教育活動を推進していることと思います。

本県では、「主体的に学び 他者と協働し 豊かな未来を拓く やまなしの人づくり ～誰もが教育の機会にアクセスできるやまなし～」を基本理念とし、各種教育施策を推し進めております。施策の基本方針には、伝統・文化に関する教育の推進が盛り込まれ、芸術教科の特性を生かし、表現活動や鑑賞活動を通して文化芸術についての理解を深め、創造的な表現力と発信力を育むことを目指しております。このことは、まさに、本大会のテーマであるところの「未来をひらく原動力＝アートの力」と共通する理念であると感じております。造形表現、図画工作、美術、工芸における学びは、形や色などの性質やそれがもたらす感情を理解し、感性や創造力を働かせてイメージし表現したり、作品のよさや美しさを感じ取り味わったりする能力を育むことです。造形活動で培った資質・能力は新しい価値を生み出すものであり、これらの力は、将来にわたりグローバル社会を生き抜く上で、一層磨いていく必要のあるものです。未来を見据えた本大会の研究協議とその成果が、各都県に広がっていくことをご期待申し上げます。

結びに、本大会を開催するに当たり、関係の皆様方のご努力に、心から感謝の意と敬意を表しますとともに、皆様方のご活躍と造形教育のますますの発展を祈念いたしまして、祝辞とさせていただきます。

祝　辞

甲府市教育委員会教育長
松田 昌樹

「第64回関東甲信越静地区造形教育研究大会山梨大会」が、盛大に開催されますことに、心よりお祝い申し上げます。

造形教育の推進にご尽力されている多くの先生方に、甲府市にお越しいただき、心より歓迎いたします。

本市は山梨県のほぼ中央に位置し、市内からは、北に国内屈指の渓谷美を誇る日本遺産御嶽昇仙峡、南に世界文化遺産の霊峰富士、西に南アルプス連峰の山々を望み、四季折々の変化に富んだ自然美を間近で楽しむことができ、さらには、全国に誇れるワイン、甲州印伝、ジュエリーをはじめとする地場産品や、ほうとう、甲府鳥もつ煮等の地元に愛され続けている食文化など、魅力に溢れています。ぜひ、この機会に甲府のまちを堪能していただければ幸いです。

さて、近年、従来のSTEM教育にArtのAが加えられたSTEAM教育が注目を集めております。STEAM教育には科学技術と創造力とを融合させた新たな学びが求められており、その背景には、豊かな感性をもって自ら課題を設定し、その解決に向けて様々な知識や技術を総合的に活用していく力をもつことで、これから予測困難な社会を生き抜いていく力を身に付けることを重視する考えがあります。

そういう観点で見ると、今回のテーマである「未来をひらく原動力＝アートの力」は、現状に合致した大変重要なものであると思います。このテーマに沿って研究が進み、造形教育が充実することが、子供たちが自らの手で未来を拓いていく能力の獲得に通ずると信じて疑いません。今大会において、大きな成果が得られ、造形教育がより一層進展していくことを期待するとともに、その成果が、子供たちのよりよい未来づくりに大きく貢献することを願っております。

結びになりますが、本大会を開催するに当たり、ご尽力賜りました関係者の皆様に心から感謝申し上げますとともに、本大会のご成功と造形教育のますますのご発展を祈念いたしまして、挨拶といたします。

大会日程 会場図

●大会日程 *都県代表者会議等は11月10（月）にオンライン開催

11:00 12:00 12:30 13:00 14:00 15:00 16:00 16:30 17:00 17:15

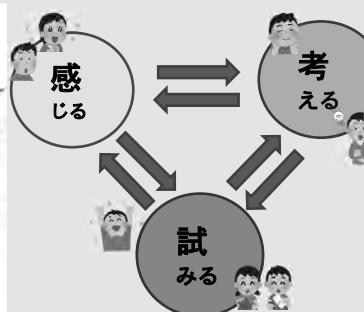
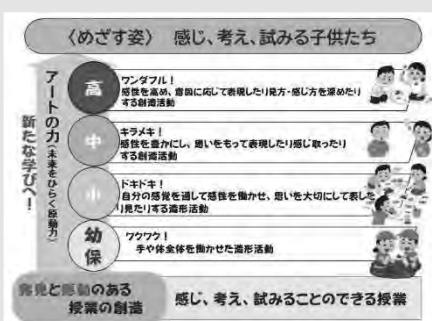
日 程	受 付		校園種別分科会	調査官による講話
	体 育 館	・企業ブース ・県立美術館での児童によるギャラリートーク実践映像 等		

記念講演、基調提案

●オンデマンド(大会前)

開会式 実行委員長挨拶

基調提案



「発見」と「感動」のある授業は、「感じ、考え、試みる」授業を創造すること（新野貴則・山梨大学教授考案）により、学びの実感につながる。

子供たちが自ら「感じ、考え、試みる」という学びの構造をつくることで、「発見」や「感動」の姿が表れてきます。その一つ一つの「発見」と「感動」が原動力となり、その積み重ねが、実感を伴いながら、かけがえのないその子供の「学び」となり、その子供自身の創造力を育んでいくだろうと考えます。

記念講演

講師

奥村 高明 様

元 文部科学省初等中等教育局教科調査官、元 日本体育大学教授

尚絅学院大学客員研究員 武蔵野美術大学ソーシャルクリエイティブ研究所研究員

神奈川大学「ひらめき鑑賞学」非常勤講師

演題 「図工・美術の意味～世界の本質に向かう芸術教育の願い」



大会全体 教科調査官 講話

文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官

文化庁参事官(芸術文化担当)付 教科調査官

国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官



小林 恭代 様

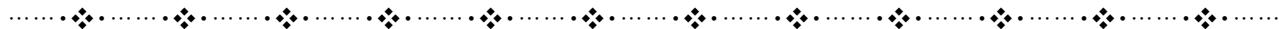


平田 朝一 様

第64回関東甲信越静地区造形教育研究大会山梨大会 第1分科会

大会日程

11:00	12:30	12:40	13:00	13:30	14:00	14:30	14:40	15:50	16:20	16:30	17:10	17:15
受付	開会行事	研究方針	提案①	提案②	提案③	休憩	グループ討議	総括助言	休憩	講師指導講話	閉会行事	



開会行事

進行：山梨県ファシリテーター

甲府市立北東中学校教諭 畠田 真敏

- 1 開会の言葉
- 2 総括助言者の紹介
- 3 討議の柱について
- 3 分科会の流れについて（含諸連絡）

幼児教育研究方針

山梨県私立幼稚園連合会研究アドバイザー

元山梨学院短期大学教授 伊藤 美輝

提案①～③

進行：山梨県司会者

学校法人岩田学園理事長

石野 公之輔

実践報告①②③（30分（含む準備・機材確認）×3提案）

グループ討議

- 1 グループ討議（60分）
- 2 各グループによる発表（10分）

総括助言

まとめ 1

元山梨学院短期大学教授

伊藤 美輝

まとめ 2

元白百合女子大学教授

安藤 聖子 様

講師指導講話

小学校：文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官

小林 恭代 様

閉会行事

進行：山梨県ファシリテーター

- 1 お礼の言葉
- 2 諸連絡
- 3 閉会の言葉

第64回関東甲信越静地区造形教育研究大会山梨大会 第2～6分科会

大会日程

11:00	12:30	12:35	13:20	13:30	14:15	14:25	15:10	15:20	16:00	16:20	16:30	17:10	17:15
受付	開会行事	提案①	休憩	提案②	休憩	提案③	休憩	テーマに沿っての討議	総括助言	休憩	講師指導講話	閉会行事	

Digitized by srujanika@gmail.com

各分科会会場にて行います。

開会行事

進行：山梨県ファシリテーター

- 1 開会の言葉
 - 2 総括助言者の紹介
 - 3 分科会の流れについて（含諸連絡）

提案①～③

- 1 提案発表（15分）
 - 2 質疑応答（5分）
 - 3 提案のポイント・協議の柱（5分）
 - 4 協議・まとめ（20分）

分科会テーマに沿っての討議

進行：山梨県ファシリテーター

- 1 討議の柱の提案（5分）
 - 2 グループ討議（20分）
 - 3 各グループによる発表（10分）
 - 4 まとめ（5分）

総括助言

各分科会総括助言者	2 分科会	東京家政大学教授
	3 分科会	東京学芸大学教授
	4 分科会	元日本体育大学教授
	5 分科会	山梨大学教授
	6 分科会	武藏野美術大学教授

講師指導講話

中学校：文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調查官
小学校：文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調查官

平田 朝一 様
小林 恭代 様

閉會行事

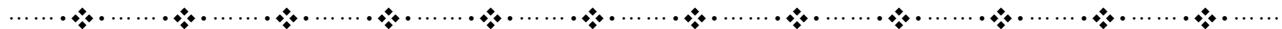
進行：山梨県フェシリテーター

- 1 お礼の言葉
 - 2 諸連絡
 - 3 閉会の言葉

第64回関東甲信越静地区造形教育研究大会山梨大会 第7分科会

大会日程

11:00	12:30	12:40	13:40	13:50	14:40	15:10	15:20	16:20	16:30	17:10	17:15
受付	開会行事	提案	休憩	協議	テーマに沿っての討議	休憩	総括助言	休憩	講師指導講話	閉会行事	



開会行事

進行：山梨県ファシリテーター

身延町立身延中学校 小田切 武

- 1 開会の言葉
- 2 総括助言者の紹介
- 3 分科会の流れについて（含諸連絡）

提案・協議

- 1 提案発表（60分）
- 2 質疑応答（10分）
- 3 提案のポイント・協議の柱（5分）
- 4 協議・まとめ（35分）

分科会テーマに沿っての討議

進行：山梨県ファシリテーター

協力：山梨県立美術館学芸員 太田 智子 様

- 1 討議の柱の提案（5分）
- 2 討議（25分）
- 3 まとめ（5分）

総括助言

千葉大学准教授 神野 真吾 様

講師指導講話

中学校：文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 平田 朝一 様

閉会行事

進行：山梨県ファシリテーター

- 1 お礼の言葉
- 2 諸連絡
- 3 閉会の言葉

【甲府南中学校へのアクセス図】

会場: 甲府市立南中学校 甲府市湯田2丁目 21-2
JR 身延線南甲府駅より徒歩 4 分 JR 甲府駅より車で 10 分



お車は南中校庭に停めてください（大会関係者は第2グラウンド停めてください）

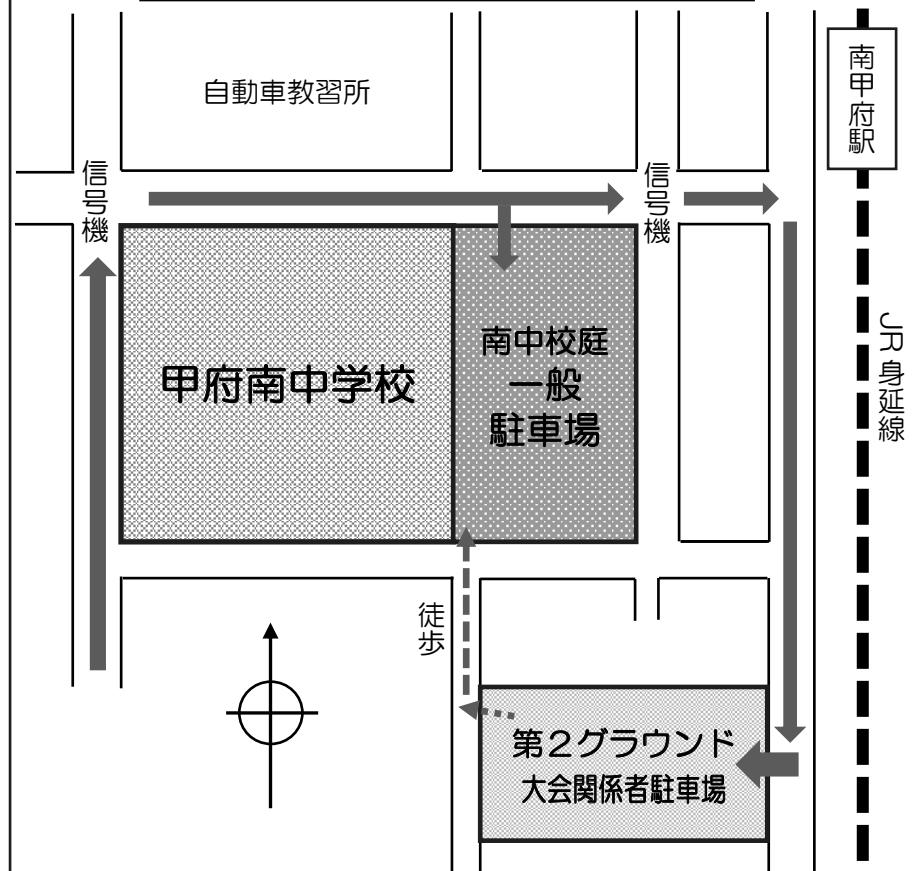
雨天の場合一般参加者は第2グラウンドへ（大会関係者は南中と湯田小の職員駐車場へ）

会場校の最寄り駅は JR 身延線「南甲府駅」です。当該駅は Suica は使えますが、JR 東海の管轄となり、JR 中央線からの乗り換えになる場合は、JR 東日本と管轄エリアを跨ぐため、甲府駅で一旦下車・清算し、再度 JR 身延線乗車する形になります。当日はなるべく紙の切符を事前に購入していただくことをお勧めします。（この場合は甲府駅で改札を出なくてもよい。）

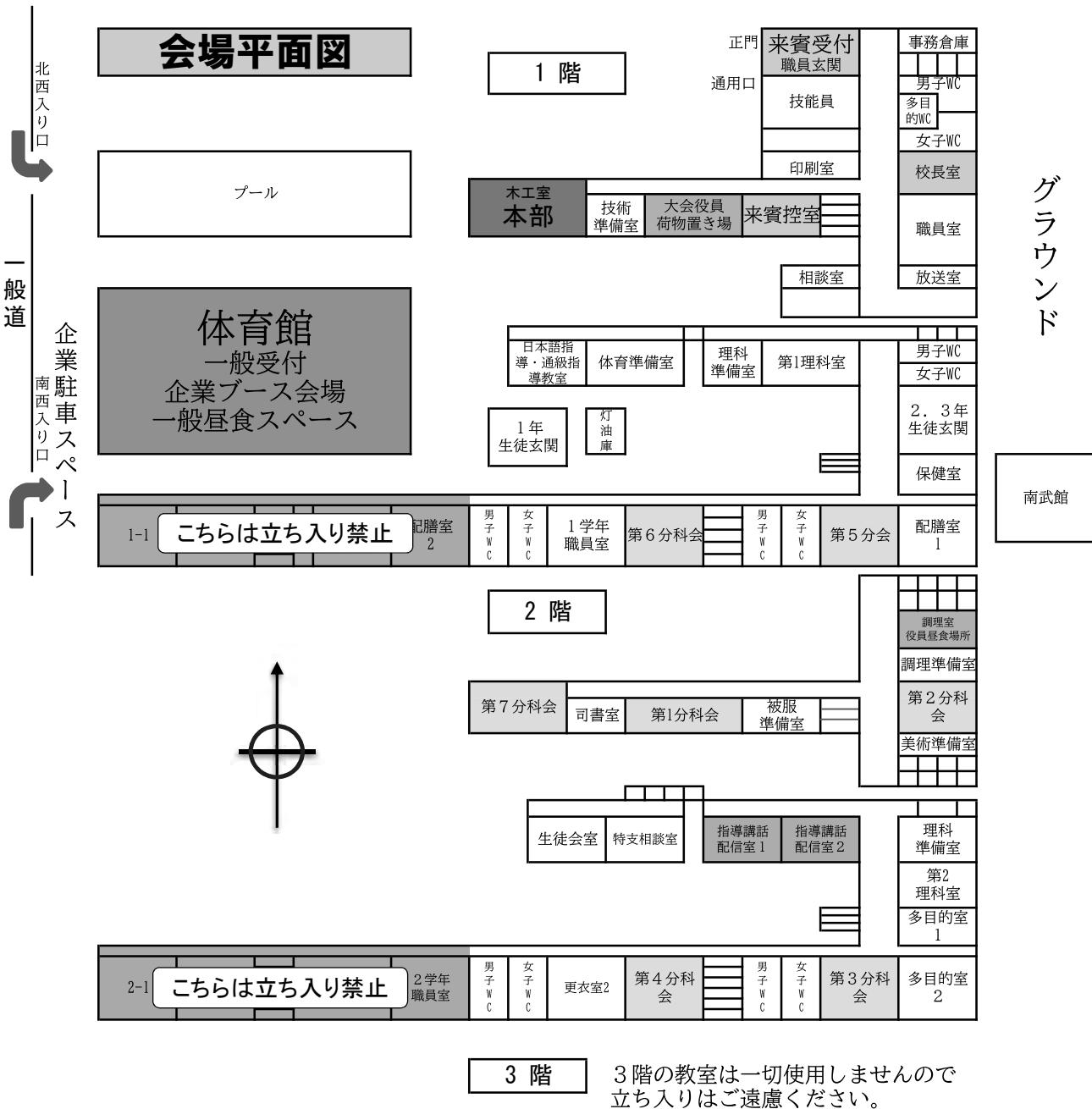
甲府南中学校周辺図

お車は南中校庭に停めてください。
大会関係者は第2グラウンド停めてください。

雨天の場合一般参加者は第2グラウンドへ
大会関係者は南中と湯田小の職員駐車場へ



会場平面図



- 一般受付・企業受付：体育館：一般昼食会場
- 来賓受付：正門横職員玄関
- 来賓控室：1F相談室1
- 本部：1F木工室
- 大会役員の荷物置き場：第2コンピューター室
- 大会役員の昼食場所：2F調理室
- 指導講話配信室：2F特別支援教室
- 分科会1：2F被服室
- 分科会2：2F第一美術室
- 分科会3：2F2年4組教室
- 分科会4：2F2年3組教室
- 分科会5：1F1年4組教室
- 分科会6：1F1年3組教室
- 分科会7：2F図書室

大会宣言 研究方針

大会宣言

将来の予測が困難な時代（VUCA）を生きる子供たちに、自らの人生を切りひらき、自ら生涯を生き抜く力を培うことが、学校教育（特に造形教育）に強く求められています。造形教育は、一人一人が感性を豊かに働かせ、問い合わせ（主題・課題）をもち、その解決に向け様々な知識や技能を総動員して自分の最適解を創造していく教育活動であり、生きる力の育成に直結します。

本大会は、「未来をひらく原動力＝アートの力～“発見”と“感動”のある授業づくりを通して～」を大会テーマとしました。山梨大会で提案する「“発見”と“感動”のある授業」とは、「感じ、考え、試みることのできる授業」であると捉えます。「感じ、考え、試みることのできる授業」とは、子供たちが楽しさや面白さ、美しさ、不思議さを感じ、その感じたことから表現方法について自ら問い合わせをもって考え、それを実際に試みることを通して、主体的に学んでいく授業です。このような、子供たちが自ら「感じ、考え、試みる」という学びの構造をつくることで、“発見”と“感動”的姿が現れます。その一つ一つの“発見”と“感動”が原動力となり、子供たちはさらに試行錯誤を繰り返し悩み、選び、決めて新たな造形へと挑んでいく。この積み重ねが創造力となり「未来をひらく原動力」へつながると考えます。私たちは、このような「アートの力」が、子供たちの未来をひらく原動力となることを確信し、その力を育む授業づくりを目指します。

また、山梨県のような人口の少ない県は、少子化により、造形教育に携わる教員数が激減しています。本大会をきっかけに新たな造形教育に係わる教員のネットワークづくりを推進し、造形教育の活性化につなげたいと考えています。特に、幼稚園・保育所・認定こども園・小学校・中学校・高等学校の異校種間の連携強化に努めています。

私たちは、関東甲信越静地区の多くの先生方とともに、子供たちの「生きる力」の育成に不可欠な造形教育研究活動の意義や価値を再確認し、さらなる造形教育研究活動の充実を図ります。そして、子供たちが自ら未来を切りひらき、豊かな人生を送ることができるよう造形教育の発展に力を尽くしていくことをここに宣言します。

令和7年11月15日
第64回 関東甲信越静地区造形教育研究大会 山梨大会

基調提案(概要)

■ 第64回関東甲信越静地区造形教育研究大会 2025 山梨大会 ■

テーマ 「未来をひらく原動力＝アートの力～“発見”と“感動”のある授業づくりを通して～」

人生 100 年時代、社会の在り方が劇的に変わる Society5.0 時代の到来に、グローバル化は私たちの社会に多様性をもたらし、また、急速な情報化や技術革新は人間生活を質的にも変化させつつある。第 4 期教育振興基本計画では、2040 年以降の社会を展望して、持続可能な社会の創り手の育成と日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上を目指すことを示している。将来の変化を予測することが困難な時代 (VUCA) を前に、子供たちには、自らの人生を切り拓いていき、自らの生涯を生き抜く力を培っていくことが求められている。このような中、本人はもちろん社会全体のウェルビーイングの向上を視野に、新しい時代を生きる子供たちに、学校教育は、造形・美術教育は何を準備しなければならないのか、このような疑問のもとに本テーマを設定した。

山梨県の教育振興基本計画の基本理念「主体的に学び 他者と協働し 豊かな未来を拓くやまなしの人づくり」を受け、前回山梨大会のテーマ「造形100年教育」を引き継ぎ、人生100年の視点に立って、造形・美術教育において学び続けることがどのようなことか、思いを巡らし、現時点での考えを示すことができればと考える。そのキーワードとなるのが、子供たちの中に見られる“発見”と“感動”であり、一人一人の子供たちがこれらの状況に出会う環境をどのようにつくっていくかを考え、授業を創造していきたい。

具体的には、いろいろな「もの」や「こと」に気付くことが、豊かな生活につながることだと考えると、その気付きを培っていくためには、常に「問い合わせ」（課題、主題）をもつことを意識することだと考える。図画工作科・美術科は、題材は教師が設定するが、その題材に対してどう表現していくか、主題は？ 材料は？ 適した用具は？ 鑑賞の場面においても形や色からどんな印象やイメージがするか、作者の意図を推し量ったり、その作品が生まれた背景はどうだったかを考えたりするなど、自ら問い合わせを設定し、自己決定の連続から自分の答えを導いていく教科である。実社会においても、日常の中で答えがはじめから決まっているものではなく、課題を見付け、問い合わせをもち、自分なりの最適解を導いていくことが求められている。このことは、図画工作科・美術科の学びと本質的に一致する。では、実際の授業の場面ではどのようなことを意識して取り組んだらよいか。それは、見通しをもつ（ゴールをイメージする）こと、そして、その視点は、生活を明るく豊かにしたり心が豊かになったりすること、美術や美術文化と豊かに関わることができること、普段の生活や社会の中で生かしたり役立ったりすることにつながるかを拠り所として確認し、そのために必要な資質・能力である 3 つの柱を簡潔に整理し、それを子供たちとイメージを共有することが大切であると考える。その資質・能力が“発見”と“感動”とリンクしているかを考え、授業の中で設定していくことが大切である。前回大会で示した資質・能力の内容と何に役立ち生かされるかなども参考にしつつ、学びの実感につながるイメージ（ゴール）をもつことができればと思う。

具体的な研究においては、山梨大会で提案する「“発見”と“感動”のある授業」とは、「感じ、考え、試みることのできる授業」であると考える。「感じ、考え、試みることのできる授業」とは、子供たちが楽しさや面白さ、美しさ、不思議さを感じ、その感じたことから「どうしたら表すことができるか？」と自らの問い合わせをもって考え、それを実際に試みることを通して、主体的に学んでいく授業である。このような、子供たちが自ら「感じ、考え、試みる」という学びの構造をつくることで、“発見”や“感動”的姿が表れてくる。その一つ一つの“発見”と“感動”が原動力となり、子供たちは更に感じ、考え、試みでは悩み、選び、決めて、新たな造形へと挑んでいったり、作品などの対象を多面的・多角的な視点で見て、読み取り、解釈して新たな価値をつくったりしていく。そうした子供たちの中に表れる一つ一つの“発見”と“感動”的積み重ねが、実感を伴いながら、かけがえのないその子供の「学び」となり、その子供自身の創造力を育んでいくだろうと考える。

そして、その創造力こそが、「未来をひらく力」へつながっていくと、私たちは考える。「“発見”と“感動”的ある授業」により、子供たちはどのような力を發揮し身に付けていくのか、そして、その力は将来どのような力となり得るのか、様々な校園種・学年・領域での研究につなげ、議論していくたい。

一人一人が自らの可能性を最大限に發揮し、よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出していくウェルビーイングの向上に寄与する契機となる研究大会としていきたいと考える。

1 山梨大会の研究について

■ 第64回関東甲信越静地区造形教育研究大会 2025 山梨大会 ■

テーマ「未来をひらく原動力＝アートの力～“発見”と“感動”のある授業づくりを通して～」

●はじめに

前回の2014年全国及び関東甲信越静地区造形教育研究大会山梨大会では、「造形100年教育～私を俯瞰して見えるもの～」をテーマとして、これまでと今、そして未来100年を俯瞰し、様々なものやことにある「よさ」や「美しさ」を感じ、考え、創造していくことの大切さを次世代に伝えていくために、今できること、今、すべきことについて全国の造形教育に携わる方々と共に考え研究を深めた大会であった。山梨県からは、現行の学習指導要領の改訂に向け、資質や能力である4つの力①を図画工作科、美術科でどのように育成していくか、それぞれの校園種において授業提案をした。その授業の時間に主に働かせる力を簡単なキーワード②で示し、子供たちと指導する教員が共有することで、単に技術だけではない、資質や能力に視点をおいた取組を、全国に発信した大会であった。

①造形（美術）への関心・意欲・態度、発想や構想の能力、創造的な技能、鑑賞の能力

②（小学校高学年）「思いをもって楽しもう」「思いに合わせて考えよう」「思いに合わせて工夫しよう」「見つめよう」

●今、置かれている状況とこれから

この前回大会から11年後に開催される、今回の本県での関東甲信越静地区造形教育研究大会山梨大会では、この間、学習指導要領の改訂が行われ、また、新型コロナウイルス感染拡大防止から、「新しい生活様式」の下での生活を余儀なくされるなど、大きい変化や変革のあった期間であった。こうした社会的変化の影響が、身近な生活も含め社会のあらゆる領域に及んでいる中で、教育の在り方も新たな事態に直面することとなった。学校は、「学びの時代」③へと向かい、まさに個の伸長に重点を置いた資質・能力の育成が求められるようになるとともに、一人一人が生涯にわたって学び続け、学んだことを生かすことができる社会づくりの推進④が求められるようになった。その方策として、GIGAスクール構想が前倒しとなり、1人1台端末が配付され、従来の授業形態も大きく転換⑤することとなった。

人生100年時代、社会の在り方が劇的に変わるSociety5.0時代の到来に、グローバル化は私たちの社会に多様性をもたらし、また、急速な情報化や技術革新は人間生活を質的にも変化させつつある。この予測困難な社会⑥は、多様な主体がランダムにイノベーションを起こし、速いスピードで相互に影響し合うことで、一つの出来事が広範囲かつ複雑に伝播することによる変化に対応することが難しいことからくるものと捉えられる。

多数のイノベーターが新しい価値を創造しても、それを感性的に感じ取り、理解し、共有していくことができる資質・能力を備えていれば、予測困難な社会にも対応でき、課題を解決していくことができるのではなかろうか。さらにAIなどの情報技術が進展していく中、課題解決能力だけでなく、むしろ課題発見能力が重要であると考える。それは、AIにより、与えられた課題に対して、ビッグデータの分析を通して課題を解決することはできても、AIが考えるべき課題を発見し設定することは人間しかできないことだからである。そして、この気付きやその役割を担う学びが、図画工作科や美術科を通して培われる資質・能力であると考える。

2019年6月に行なわれた中央教育審議会教育課程部会において、新しい時代における芸術教育の在り方として、「これから社会に必要な資質・能力の育成」を観点に全ての子供たちの心豊かな人格の完成を目指し、感性や創造性の涵養、STEAM教育⑦やデザイン思考⑧の重要性なども視野に入れ、芸術教育を通してどんな力が付けることができるかを議論している。その中で福本謹一氏（兵庫教育大学名誉教授）は、美術教育の存在意義を5つ⑨挙げており、現行の学習指導要領に示された感性や創造性などの資質・能力を育成する教育的な効果があることを挙げている。

2025年7月に公表となった令和4年度小学校学習指導要領実施状況調査⑩において、表現方法に応じて材料や用具を活用することや、自他国の美術作品や生活の中の造形の表現の意図や特徴について感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めることなどに課題があった。これらの課題に対して、児童がよりよい未来や生活への夢や願いをもったり想像したりすることを大切にし、感性を育み、つくりだす喜びを味わえるようにすることなどを指導上の改善点として挙げられている。

私たちは感覚器官が捉える刺激により世界を捉えているが、特に図画工作科・美術科は形や色などを主な感覚的刺激とし、それを拠り所として独自の活動を展開してきた。しかし、東日本大震災による原発事故や新型コロナウイルスなどで露わになったように、視覚で感じる以上のことをどう自分たちの能

力とすることができますかという問い合わせが必要になる。そのためには、自分が感じたことや集めた情報を総合的に判断し、自ら行動を選択することが求められる。それには正確な知識や情報が、想像し考えるためのリソースとして必要であり、また、それを読み解く能力も必要となってくる⑪。それを経験的に学ぶことのできる教科の一つが図画工作科・美術科であると考える。

- ③文部科学省「令和の日本型学校教育」学校 ver. 3 として、K12 の「学習の時代」から K16 「学びの時代」への転換を示している。
④山梨県教育大綱 これまでの「教育→仕事→老後」といった単線型の生き方から、マルチステージとして生涯に複数の仕事を持つことや、リカレント教育が注目され、働きながら自ら学習し、地域社会の課題解決に取り組む複線型の生き方が一般的になると考えられている。
⑤2021 年 1 月中央教育審議会答申「令和を生きる『子供たちが育むべき資質・能力』」とは、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会の変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている。」として、20 年代を通じて実現を目指す「令和の日本型学校教育」(すべての子供たちの可能性を引き出す、「個別最適な学び」と「協働的な学び」)の実現に向けた改革を進めることとしている。
⑥予測困難な社会 (VUCA : V (Volatility : 不安定) U (Uncertainty : 不確実) C (Complexity : 複雑) A (Ambiguity : 曖昧) の英単語の頭文字を組み合わせたもの)
⑦米国において STEM(科学、技術、工学、数学)教育にアートの A (芸術だけでなく、文化、経済、法律、政治、倫理等も含む広い範囲で A を定義している) が加わり STEM 教育へと変わった。科学技術を推進する上で、想像力や創造力が大事である表れである。
⑧アイデア提案の習慣化、イノベーションの創出、多様な意見の受容、チーム力の強化のため、共感、定義、概念化、試作、テストの 5 つのプロセスを踏んでを行い、前例のない課題や未知の問題に対して最適な解決を図るための思考法。
⑨ I. テクノロジーの美的応用や芸術のテクノロジーとの融合に柔軟に対応できる資質・能力の育成が不可欠であること、II. 伝統文化学習については、伝統文化をただ継承するだけではなく、創造する意識を高める取組を考えることが重要であり、そこに芸術教育の創造的な機能が発揮されること、III. 芸術文化が地方創生に果たす役割があること、IV. ユネスコは芸術教育世界会議など、芸術教育普及への国際的な動きとして芸術教育を学校教育の重要なコアとして位置付けること、V. 美的空間を形成し、ネットワークを構築する社会的な効果、あるいは個々の子供たちの癒やし、あるいは物語化をもたらすような心理的効果、感性や創造性などの資質・能力を育成する教育的な効果があることを挙げている。
⑩2025 年 7 月国立教育政策研究所・令和 4 年度小学校学習指導要領実施状況調査結果が公表され、教育課程の基準に係る課題の有無及びその内容等を検証・総括された。
⑪美術科教育学会通信 No. 104 「第 42 回千葉大会の中止に関する報告とコロナ後の課題」神野真吾 (千葉大学教育学部准教授) により、東日本大震災の原発事故による放射性物質や新型コロナウイルスなどは、目や耳、鼻でも捉えることができないが、私たちに確実に強い影響を与える存在である。放射性物質やウイルスを前にして、想像力 (イマジネーション) を原動力とするアートの力が、どのように応えることができるのか、私たち造形教育に携わる者がどのように世界と関わるかという大きな課題に直面しているということを述べている。

●テーマに込めた思い

本県の教育大綱は、教育振興基本計画の基本理念「主体的に学び 他者と協働し 豊かな未来を拓くやまなしの人づくり」のもとに、本県の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について定めたものである。科学技術が今以上に急速に発展したとしても、何を求めて AI やロボットを活用するのか、この目的を考え出すのは人間であり、どのような未来を創造し、よりよい社会や人生を創っていくか、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を見出し、他者を尊重して協働しながら困難を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようになることが必要であることは明確である。このことは、2030 年までの達成目標として掲げている SDGs の達成 (現実的には厳しい状況であるが) にも寄与するものと考える。

また、2023 年 6 月に閣議決定した第 4 期教育振興基本計画では、2040 年以降の社会を展望して、持続可能な社会の創り手の育成と日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上を目指すことを示している。

「ポジティブ心理学」という自己実現理論を唱え発展させた、マーティン・セリグマンによって考案されたウェルビーイングの概念として有名なものに、「PERMA」⑫ (Positive Emotion : ポジティブな感情など頭文字をとったもの) という指標があるが、これら 5 つの要素を満たしていると幸せである、とするもので、自分の課題に自分で気付き、解消のための取組に対し、自力で最適解を求める教科「美術」を学ぶこと自体にこれら要素を満たすことができるものと考える。さらに、令和 7 年 7 月 11 日付け全日本美術教育会議『次期学習指導要領における美術教育充実のための提言』の【顕在化している課題と美術科教育の強み】の項目の中で、「ウェルビーイングを重視した未来社会を見据えた学習の導入にも積極的に取り組む必要があります。私たちには、さまざまな知識を創造的思考で統合し、心の豊かさや社会課題の解決に向けた探究的な学びを進める責務があります。その中で、美術教育を一層充実させ、社会に貢献できる力を育むことが求められています。」と記されている。将来の変化を予測することが困難な時代を前に、子供たちには、現在と未来に向けて、自らの人生をどのように拓いていくのか、また、自らの生涯を生き抜く力を培っていくことが問われる中、本人はもちろん社会全体のウェルビーイングの向上を視野に、新しい時代を生きる子供たちに、学校教育は、造形・美術教育は何を準備しなければならないのか、このような疑問のもとに本テーマを設定した。前回の山梨大会のテーマ「造形 100 年教育」を引き継ぎ、人生 100 年の視点に立って、造形・美術教育において学び続けることがどのようなことか、思いを巡らし、現時点での考えを示すことができればと考える。そのキーワードとなるのが、子供たちの中に見られる“発見”と“感動”であり、一人一人の子供たちがこれらの状況に出会う環境をどのようにつくるかを考え、授業を創造していきたい。

⑫Positive Emotion(ポジティブな感情) Engagement(何かへの没頭) Relationship(人との良い関係) Meaning and Purpose(人生の意義や目的) Achievement/ Accomplish(達成)の頭文字をとったもの

●研究の方向性

2013年に国立教育政策研究所で実施した、「特定の課題に関する調査（図画工作・美術）」¹³において、図画工作・美術の学習は概ね好きであるが、生活や社会に役に立つと思うかということについては課題が見られ、令和4年度の小学校学習指導要領実施状況調査において、傾向は同様でありながら肯定的な回答がさらに低下するという結果であった。現行に至る学習指導要領の改訂では、教科や科目の目標の柱書に、例えば中学校では、「生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す」と明記し、単に美術は上手に描いたりつくったりすることではなく、自分の好きなものを飾って生活を豊かにしたり、ものを選ぶ際に形や色にこだわったり、美術文化などの先人の知恵に触れ、継承、発展、創造することなども豊かな関わりのひとつとして全ての子供たちが生涯にわたって美術を愛好することを重視し「美術は何を育成する教科なのか」ということを明確にしている。先の調査当初に比べると資質や能力に焦点を当てた授業づくりにより、改善傾向にあるものと思われるが、今、学んでいることが具体的にどのようなところで生かされ、将来につながっているかが明確にならないと、なかなか学びの実感をもつところまでは難しいのではないかと考える。そこで、指導案の中に、ここで養い培う資質・能力が、どのような時に生かされ、生活や社会と豊かに関わるかを例示し、それを児童生徒と共有することで学びの体系化の一端を感じ取らせたい。一端というのは、育む資質・能力は、汎用的な資質・能力であり、例示したものだけに止まるものではないからである。実際、それぞれ授業で取り組んでいる題材の目標の先に、どんなことにつながるかを考えてみると、どの題材でも、皆同じような文言に収束してしまったり、また、ピンポイントで例示するのも難しいと感じたりすることもあるが、考えることが大事である。抽象度が高ければ同じような文言になることも想定されるが、具体的な場面ではいくらでも例示でき、少なくとも考えることにより、抽象度が下がり、日常生活や社会の中でのつながりのある力にシフトさせることができるものと考える。文言が一定のものに収束するしたら、何のための学びかが、今よりも分かりやすい概念理解につながると思う。曖昧さを解消するための手段として例示することで、指導する側も、活動する子供もどんな学びかをイメージすることができ、その資質・能力を発揮したときに学びの実感をもたせることができるものと考える。そのためには自ら学び、自ら考える力などの生きる力の基盤、思考や実践の出発点である体験活動を一層重視し、感覚を働かせ感性を豊かにしていくことが大切¹⁴である。(ただし、小学校低学年以下は、特に活動が日常生活に直接的なつながりを見出すことが難しいので、少なくとも次の活動にどうつながるかを意識すること、カリキュラムマネジメントの視点が大切である。)

美術が、美術の中だけで語ると今までと変わらないという思い、学習指導要領が教科全体を学力の三要素に整理しまとめられたことから、社会や教育全体からみた美術科の位置などを考えて、その必要性を訴えていくことが大事であると考える。具体的な手立てについては、感性を豊かに働かせること、そのためのキーワードが“発見”と“感動”である。図画工作科や美術科の限られた時間で種をまき、意識して感覚を研ぎ澄まし、感性を働かせるようにしていくことが求められている。図画工作科・美術科での学びは、感じて考えて行動していく（試みる）、つまり感性と理性の高い次元での調整能力を養うのに非常に有益である。そして行動の起点となる感じることのセンサーを高めるためには、授業の中で“発見”と“感動”を引き起こすための手立てを講じることが大切である。

道端に一輪の花が咲いている状況に、気付く人とそうでない人がいる。そこに存在していたとしても、そのものに興味・関心がなく気が付かなければ、存在していないのと同じになってしまう。いろいろな「もの」や「こと」に気付くことが、豊かな生活につながる。では、その気付きをどのようにして培つていったらよいか。それは、常に「問い合わせ」をもつことを意識することだと考える。図画工作科・美術科は題材としてのテーマは教師が設定するが、そのテーマに対してどう表現していくか、主題は？ 材料は？ 適した用具は？ 鑑賞の場面においても形や色からどんな印象を受けたりイメージをもつたりするか、作者の意図を推し量ったり、その作品が生まれた背景はどうだったか考えたりするなど、自ら問い合わせを設定し、自己決定の連続から自分の答えを導いていく教科である。社会や日常の中では答えがはじめから決まっているものではなく、課題を見付け、問い合わせをもち、最適解を導いていくことが求められている。図画工作科・美術科の学びと本質的に一致している。では、実際の授業の場面ではどのようにことを意識して取り組んだらよいか。それは、見通しをもつ（ゴールをイメージする）こと、そして、その視点は、生活を明るく豊かにしたり心が豊かになったりすること、美術や美術文化と豊かに関わることができること、普段の生活や社会の中で役立ったり生かされたりすることにつながるかを拠り所として確認し、そのために必要な後述に示す3つの柱を簡潔に整理し、それを子供たちとイメージを共有することが大切である。そしてその資質・能力が“発見”と“感動”とリンクしているかを考え、授業の中で設定していくことである。前回大会で示した資質・能力の内容と何に役立ち生かされるか¹⁵なども参考にしつつ、学びの実感につながるゴールをイメージすることができれば、意味や価値を創り出す

ことの大切さを確かめることにつながるものと考える。

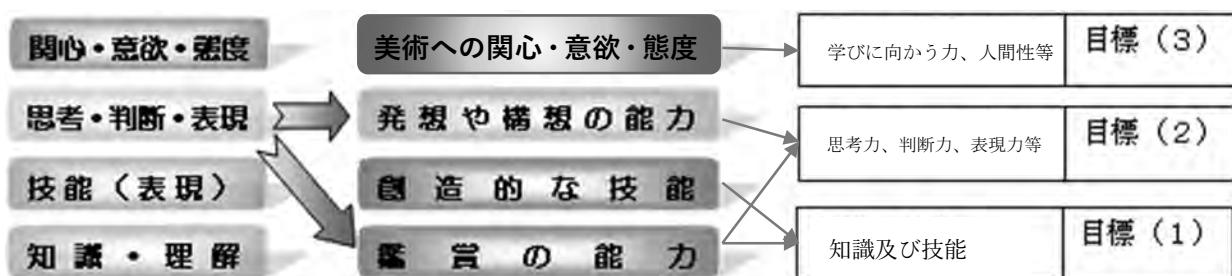
一人一人が自らの可能性を最大限に發揮し、よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出していくウェルビーイングの向上に寄与する契機となる研究大会としていきたい。

- ⑬特定の課題に関する調査（図画工作・美術）において、図画工作・美術の学習は概ね好きであるが、生活や社会に役に立つと思うかということ課題がについて肯定的な回答をしたのは、小学校で6割強、中学校で約5割の児童生徒にとどまる結果であった。2025年7月に公開された国立教育政策研究所・令和4年度小学校学習指導要領実施状況調査において、同様の傾向が見られるが、教科が好きというポイントも3ポイント、生活や社会に役立つという項目については、6ポイントほど下がる結果が示された。
- ⑭コロナ禍も影響していることもあるうかと思われるが、昨今の子供たちの実態をつぶさに見ると、明らかに以前に比べて、5指と両手を思うままに動かすことが苦手な児童の実態が垣間見られる。
- ⑮「2014全国及び関東甲信越静地区造形教育研究大会山梨大会」では、資質・能力の内容と何に役立つかを次のように示している。
- （◆：この力ってどんな力？ どんな役に立つ？）
- 【発想や構想の能力】自分なりの仮説をもつ力でもあるのではないか。
- 「こうしたら、ああなるかも…」が、その子供の中で瞬間瞬間でも起きていることが見えてくる。これは、言わばその子供なりの造形的な“仮説”ではないだろうか。その仮説を【創造的な技能】を働かせることで実現させていく。
- ◆「夢をもつ力のことかも」「いろいろないいことを思いつける人になれそう」「なにかがだめでも、また新しいことを見つけるようなたましい力」など
- 【創造的な技能】自分の力で仮説を実現させる力でもあるのではないか。
- 「自分の仮説」というものがあつてこそ「創造的」であるということが見えてくる。そこには、その子供なりの“仮説”をもとに、よりよく実現させようとする姿があった。
- ◆「夢を叶えようとするときに使えそう」「明るい未来をつくる力」など
- 【鑑賞の能力】脱皮していく力でもあるのではないか。
- 作品などを見たり、味わったりすることで、その子供の中に新しい思いがどんどん生まれてくる姿が見えてくる。そこには、これまでの自分から脱皮し新しい自分に更新していくような出会いがあった。
- ◆「いろいろなことを吸収して自分を成長させる力」「世界中の誰とでも仲良くなれる力」「本当のことを見つける力」など

● 「4つの力」から「3つの柱」へ

○以下は、平成20年度学習指導要領と現行の学習指導要領との変更点を示したものである。

*次に示したものは中学校のものである。



知識及び技能

(1)対象や事象を捉える造形的な視点について理解とともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようとする。

気付く、分かる、理解する、見付け出す、つかむ、捉える・工夫する、表す

思考力
判断力
表現力等

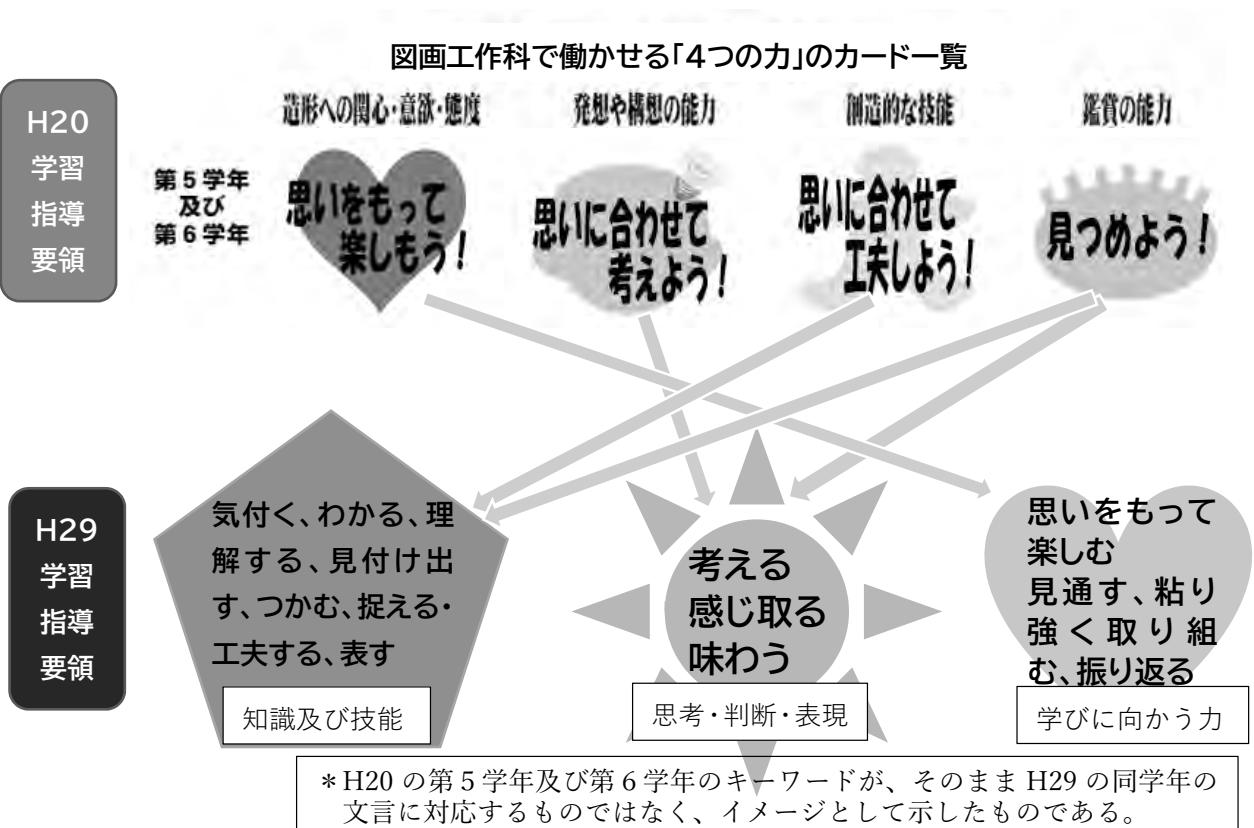
(2)造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようとする。

考える、思い付く、感じ取る、味わう

学びに向かう力
人間性等

(3)美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

思いをもって楽しむ
見通す、粘り強く取り組む、学習を調整する、振り返る



4つの力を簡単なキーワードで示すことは、授業のめあての一助として、特にその授業の時間に主に働く力、子供たちと指導する教員が共有することに役立った。その結果、作品の善し悪しではなく、働く力や能力に目を向けることができたことは成果として挙げられる。反面、課題としては、主に働く力や能力のみに目がいってしまったり、特に中学校以上においては、評価のみを意識した取組となってしまったりすることに対する危惧が声として寄せられた。つまり、それまでは、4つのキーワードを提示することで、一様の成果は得られたが、それを質的に高めていく必要がある。4つのキーワードのうち、主体的に取り組む態度（関心・意欲・態度）を基盤として、表現（発想や構想、技能）及び鑑賞に係る育むべき資質・能力は、お互いに関連付けながら、または、お互いの資質や能力を補完し合いながら取り組むことが重要であり、そのことを意識して改善を図ってきた。改訂した現行の学習指導要領では、学校教育法30条第2項に示された学力の三要素を元に、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」に整理し直された¹⁶。元来、美術教育において、「美術の教育」か「美術を通しての教育」か、という問い合わせに対して、全人教育としての在り方としては、もちろん後者であるが、美術を通して豊かな人間形成を目的としたときに、学問としての体系が曖昧であったことは否めない。前回の学習指導要領では、図画工作科・美術科での総括的な目標は、「豊かな情操を養う」ことであった。教科として何を学ぶかが課題として挙げられたことにより、今回の改訂から、先の三要素に準じた構成となったことで、今まではそれぞれの資質・能力の中に組み込まれていた「知識」が、「[共通事項]」として評価の対象になったこと、そして「豊かな情操」¹⁷については、総括的な目標から三つの柱の一つとして、学問としての教科の位置付けが一層打ち出された印象を受けるものとなつた。

このような経緯の中で、具体的な場面で働かせる資質・能力を示すこと、そしてその資質・能力は、どのような力を働かせるものかを端的に整理し共有すること（3つの柱で整理した資質・能力の明確化）、造形的な見方・考え方を働かせて、その3つの柱に整理した資質・能力を最大限できるようにするための方策（授業の中での発見、感動を促すための働きかけ）と、実際に“発見”と“感動”的場面を授業者が明確に意識し、主体的・対話的で深い学びの視点に立って授業を改善していくことによって、学びの実感につながり、「未来をひらく原動力＝アートの力」を示すことができるものと考える。

⑯国画工作・美術科では、①知識〔共通事項〕及び技能、②思考力、判断力、表現力等（発想や構想の資質・能力・鑑賞の資質・能力、小学校は〔共通事項〕イ）、③学びに向かう力、人間性等（造形《美術》に対する関心・意欲・態度）に整理し直された。

⑰「豊かな心情」については「堵う」に改められ、「養う」という、その場面、場面でつくり上げていくというイメージから、「養い育てる」という、時間をかけて育していくという意味合いに変わった。

●授業づくりに向けて（以下を、一つの拠り所として授業の構想を練ってみる）

題材の設定

- ・どんな資質・能力を育むのか。
- ・その資質・能力は、この先どのような場面で生かされるのか。
- ・そのためには、どのような題材がよいか。
- 子供の興味がわく題材は何か。
など
- その題材で試行錯誤する場面はどこか。
- 協働的な学びをどこに位置付けるか。
など
- 図画工作科・美術科の学びがどのように生かされ、その資質・能力を
働かせている具体的な子供の姿はどのような姿かをイメージする。

3つの柱



発見と感動

- ・3つの柱をより具体的に簡潔に表すとどのような文言になるか。
- ・その資質や能力を働かせている具体的な子供の姿はどのような姿か。
- ・そのためには具体的に、材料は？ 用具は？ 場所は？
など

- ・発見と感動の場面はどのような場面か。
- ・発見と感動と3つの柱を結び付けるための働きかけをどうするか。
- ・そのためにはどのような資料が必要で、どのタイミングで提示するか。
- ・主体的・対話的で深い学びをどう実現するか。
造形的な見方・考え方 ・感性や想像力を働かせる
・対象や事象を造形的な視点で捉える
・自分としての意味や価値をつくりだす
など

◆学びの実感につながる視点

- 図画工作科・美術科の学習が
- ・生活を明るく豊かにしたり、心が豊かになったりする。
 - ・美術や美術文化と豊かに関わることができる。
 - ・普段の生活や社会の中で生かされたり役立ったりする。

●研究計画

2021.12	基本的コンセプト案の確認	
2022.02	山造連での提案、各都市授業者の洗い出し依頼	
2022.05	各都市授業者等の決定	
	・授業者 ・撮影者 ・編集者 ・指導案作成協力員	
2022.06	授業提案案の提示	
2022.07	授業実践（VTR撮影）開始	・発見・感動のポイント 動画編集
2023.12	一次案内	
2024.01	山造連での提案、各都市窓口担当者等に依頼	
2024.02	各都市授業者等の確認	
	・授業者 ・撮影者 ・編集者 ・指導案作成協力員	
2024.05	授業実践（VTR撮影）開始	指導案作成 調査官を招聘し研修会の開催 ・“発見”と“感動”的ポイント 動画編集
2024.06	他県への発表者、司会、記録、指導助言者等の依頼	10月報告
2024.10	随時HPにアップ	
2025.01	山造連プレ大会	
2025.03	大会原稿フォーマット配付	
2025.05	山造研研究大会 学習会	
	各支部実践HPアップ確認・修正依頼	
2025.06	本開催に向けた内容案内 二次案内	
2025.09	原稿回収 入稿	
2025.10	各支部実践HPアップ完了 参加者に公開	
2025.11	本開催	



●各部会テーマ

- 【幼稚園・保育園】・手や体全体を動かさせた造形活動～「出会いに関わる」を楽しむ、「感じ考える」を楽しむから育つもの～
【小学校】・自分の感覚を通して感性を動かせ、思いを大切にして表したり見たりする造形活動
【中学校】・感性を豊かにし、思いをもって表現したり感じ取ったりする創造活動
【高等学校】・感性を高め、意図に応じて表現したり見方・感じ方を深めたりする創造活動

造形教育は、生きる力の中心となる想像力や表現力を最も育成できる教育である。創造する力の育成には、図画工作科・美術科の毎時間の授業において、子供たちが“発見”と“感動”的ある場面設定が不可欠であると考える。幼保・小・中・高の校種の全ての教師が、図画工作科・美術科教育の素晴らしい力、アートの力を改めて実感する機会としたい。

身に付けた知識が表現や鑑賞の喜びにつながることが大切だと考える。それはタワーのように知識を積み上げていくことではなく、知識を活用しながら見方や感じ方を深めていくことが求められる。新たな学習過程を経験することを通して学んだ知識が再構築されていくことも重要である。例えば、鑑賞の活動では、まずは自分の見方や感じ方を大切にしながら対象と向き合い、知識なども活用しながら、自分の中に新しい意味や価値を創り出していくことを積み重ねることが、鑑賞のよろこびにつながっていくと考えられる。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善において、「深い学び」というのは、ややイメージするのが難しい。それは具体的な場面や内容をひとつに絞るのは難しく、多岐にわたっていることもあるからであるが、学びの深まりの鍵となるのが、「造形的な見方・考え方」がしっかりと働くような授業であるかどうかということである。ただ「造形的な見方・考え方」をどう動かすかということに主眼を置いて考えるのではなく、まずは学習活動が教科の本質に迫ることができているかどうかが重要である。「造形的な見方・考え方」にある「造形的な視点」は、子供たちが造形を豊かに捉える多様な視点のことである。いくら自分たちの周りに美しいものやよりよいものがあってもそれらに気付かないことには感じ取ることはできない。「造形的な視点」を豊かにすることは、今まで気付くことができなかつた形や色などの働きやイメージを捉えられるようにして、様々なよさや美しさなどを感じ取ることができるようにしていくこと、そして子供たち自身が視点を見付けることができるよう、子供たちの見方をこれまで以上に大切にすることが求められる。

2 研究の具体

① 山梨の研究と方向性

山梨県では、年2回造形教育研究大会を開催し、県内の造形教育に携わる先生方の研究実践を中心とした学習会や交流を行い、研究を深めてきた。造形教育を進める上で、常に子供たちの実態に目を向け、育てたい資質・能力を中心とした授業改善に取り組んできた。この「子供たち一人一人を見つめ、一人一人の学びの歩みに寄り添いながら、研究を進める」姿勢は、今も昔も変わらず、山梨県の教師の最も大切にしているところである。

前項でも記したように、今、子供たちには、「予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を動かせながら、よりよい未来の創り手となる力」が求められている。図画工作科・美術科は、子供たち一人一人が造形的な見方・考え方を動かせ、自分の思いや考えを基に試行錯誤しながら創造していく教科である。人間らしい感情や身体性を動かせ、自ら獲得した知識及び技能を基に、思考力・判断力・表現力等を遺憾なく發揮し、新たな創造を生み出す図画工作科・美術科は、まさに今、「未来をひらく原動力=アートの力」を育む教科として、最も必要とされているといってよいのではないだろうか。

山梨では、これまで本県が大切にしてきた「子供たちを中心に据えた研究」を基に、子供たち自身が新たな学びへと立ち向かう「授業」を創造し、「感じ、考えることを楽しみ、試し続けていくことのできる子供たち」の育成を目指したいと考える。

② 「“発見”と“感動”的ある授業」

山梨大会では「“発見”と“感動”的ある授業」を提案する。「“発見”と“感動”的ある授業」と聞いたとき、皆さんはどのような場面を想像するだろうか。子供たちが「わあ！」と驚くような導入の設定とか、技術的なコツを見付けた場面などであろうか。しかし、私たちが考える「“発見”と“感動”」とは、それだけに止まるものではない。「面白い！やつてみたい！」「あれ？ どうなつているの？」「こうやつてみたらどうかな？」「できた！」「わかった！」というような、子供たち一人一

人の中に生まれてくる様々な場面での“発見”と“感動”的ことなのである。

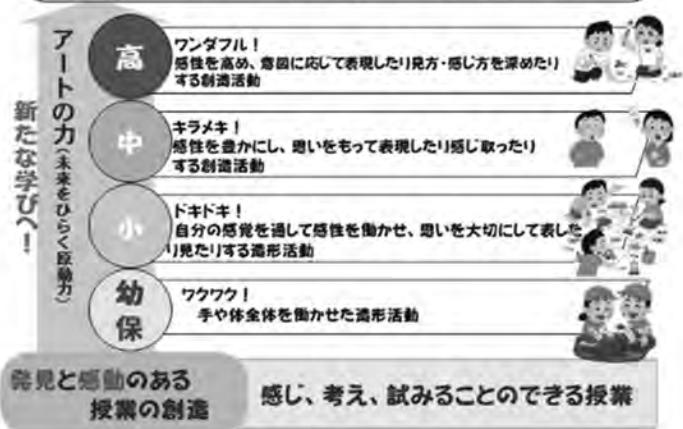
山梨大会で提案する「発見」と“感動”的ある授業」とは、「感じ、考え、試みることのできる授業」である。「感じ、考え、試みることのできる授業」とは、子供たちが楽しさや面白さ、美しさ、不思議さを感じ、その感じたことから「どうしたら表すことができるかな?」と自らの問い合わせて考え、それを実際に試みることを通して、主体的に学んでいく授業である。このような、子供たちが自ら「感じ、考え、試みる」という学びの構造をつくることで、“発見”や“感動”的姿が表れてくる。その一つ一つの“発見”と“感動”が原動力となり、子供たちは更に感じ、考え、試みては悩み、選び、決めて、新たな造形へと挑んでいったり、作品などの対象を多面的・多角的な視点で見て、読み取り、解釈して新たな価値をつくったりしていく。そうした子供たちの中に表れる一つ一つの“発見”と“感動”的積み重ねが、実感を伴いながら、かけがえのないその子供の「学び」となり、その子供自身の創造力を育んでいくと考える。

そして、その創造力こそが、「未来をひらく力」へつながっていくと、私たちは考える。「“発見”と“感動”的ある授業」により、子供たちはどのような力を発揮し身に付けていくのか、そして、その力は将来どのような力となり得るのか。様々な校種・学年・領域での研究につなげ、議論していきたい。

③ 研究の構想

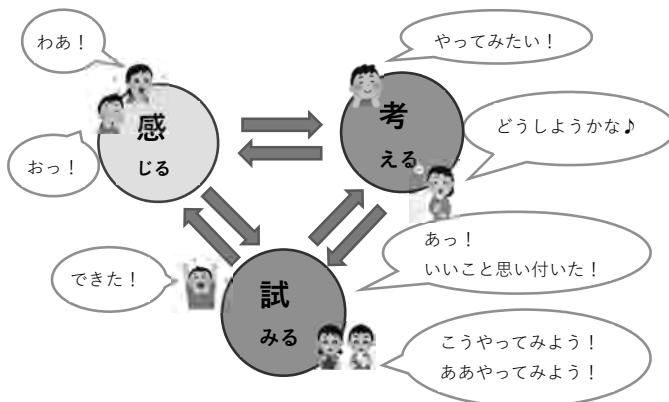
山梨大会では、“発見”と“感動”的ある授業を通して育てる子供たちの姿を、「感じ、考え、試みる子供たち」と設定し、幼稚園保育園から高等学校にかけて研究を進めていくこととした。

〈めざす姿〉 感じ、考え、試みる子供たち



④ 「“発見”と“感動”的ある授業」の学びの構造（新野貴則・山梨大学教授が提唱）

“発見”と“感動”的ある授業とは → 感じ、考え、試みることのできる授業



「“発見”と“感動”的ある授業」を簡単に図式化すると、左図のように表すことができる。「“発見”と“感動”的ある授業」では、「感じ、考え、試みる」行為が展開される。これは、必ずしも「感じる」→「考える」→「試みる」という順に展開されるものではない。題材や発達の段階により「感じる」「考える」「試みる」行為が相互に関連しながら展開される。時には、「感じながら考える」「考えながら試す」「試しながら考える」といった場面も考えられる。

そして、この「感じ、考え、試みる」行為は、単に活動しているということではなく、主体的な学びとして展開されることが重要である。そのためにも、子供たちが「感じ、考え、試みる」という学びの姿を実現するための教師の手立てが必要となる。

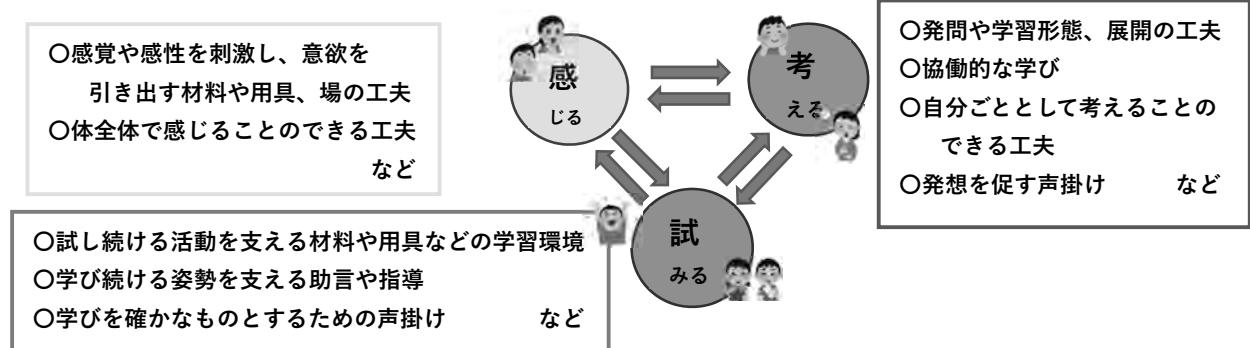
⑤ 学びの姿を実現させるための指導の手立て

「感じ、考え、試みる」学びの姿から、指導の手立てを考える。

【題材の設定】

題材の設定	
感じる	子供自身の感覚を働かせることができる題材か？
考える	子供が子供自身で考えることができる題材か？
試みる	子供が存分に試み続けることができる題材か？

【手立ての例】



上記の例以外にも、次のような工夫も考えられる。

- 題材の工夫として
 - ・ 表現内容、表現方法、材料、用具、仕組み、場所、環境などの工夫など
 - 授業の工夫として
 - ・ 導入、発問、場、学習形態、板書、掲示物、声掛け、支援、展開の仕方の工夫
 - ・ 協働的な学びの位置付けや、新たな価値を共有できる場面の設定など
 - その他
 - ・ 振り返り、ワークシート、展示方法、交流の工夫、ICTの活用、連携など
- また、具体的な場面を想定した手立てとして、次のような工夫も考えられる。
- ※ 手立てによって期待される「感じる」「考える」「試みる」子供の姿は主なもの
- 豊かなイメージを生成する場面
 - (例) 子供たちが、「わあ！」と感動したり、「えっ！？」と驚いたりすること、「やってみたい！」、「やってみよう！」と期待をもち、豊かなイメージを形成することのできる導入の工夫
 - 主題を生み出す場面
 - (例) 「こうやってみたいな」「こんなことができそう」と、豊かにイメージを膨らませたり、「よし、こうやっていこう！」と、表したいことを見付けたりするための導入や発問、板書などの工夫
 - 問いを形成する場面
 - (例) 「どうなっているのかな？」「どうやつたらいいのかな？」と仕組みに興味をもったり、「どう表そうかな？」と表現の方向性を考えたりすることのできる発問や支援の工夫

- 表現の試みに挑んでいく場面

 (例) 「よし！やってみよう！」「こうやつたらどうかな？」と、表現を試みようとする子供たちを支援する工夫や、手立ての工夫
- 「意味や価値を創造」する場面

 (例) 子供たちの“感動”に共感したり、“発見”をともに喜んだり価値付けたりする学習形態や声掛けの工夫
- 新たな問いを形成する場面

 (例) 新たな表現への挑戦を誘う問いかけや、協働による学びの共有や刺激

⑥ 「感じ、考え、試みる」学びと資質・能力

「感じ、考え、試みる」学びは、資質・能力の3つの柱とどのような関係にあるのか。次のような表に整理してみた。「感じ、考え、試みる」授業とは、子供たちが自分で考え、試し、悩み、選び、決めて、挑んでいく「主体的な学び」にほかならない。「主体的な学び」が展開される授業では、子供たちのもつ資質や能力は、表に例示されたような様相で発揮されることになるだろう。その結果、資質・能力は更新されていくと考える。

資質・能力	学びの構造：感じる・考える・試みる との関係
知識及び技能	【知識】〈試み〉たり〈感じ〉たりして気付いたことについて〈考え〉ていく過程で、形や色の性質などについて理解する。 【技能】〈考え〉たことを〈試み〉て、工夫して表す。
思考力、判断力、表現力等	【発想や構想】〈感じ〉たことに基づいて発想し、発想したことについて〈考え〉〈構想〉する。 【鑑賞】〈感じ〉たことについて〈考え〉言葉にするなどして、見方や感じ方を深める。
学びに向かう力、人間性等	子供自身が〈感じる〉〈考える〉〈試みる〉活動を通して、自分自身が学びを創造し、その喜びを味わい、さらなる学びに向かおうとする。

【参考】

幼稚園・保育所・認定こども園において育みたい資質・能力

資質・能力	幼稚園・保育所・認定こども園における教育及び保育
知識及び技能の基礎	豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする「知識及び技能の基礎」。
思考力、判断力、表現力等の基礎	気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする「思考力、判断力、表現力等の基礎」。
学びに向かう力、人間性等	心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする「学びに向かう力、人間性等」。

(幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領)

小学校図画工作科で育成を目指す資質・能力

資質・能力	図画工作科
知識及び技能	対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的に表したりすることができるようとする。
思考力、判断力、表現力等	造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようとする。
学びに向かう力、人間性等	つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。

(小学校学習指導要領解説 図画工作編)

中学校美術科で育成を目指す資質・能力

資質・能力	美術科
知識及び技能	対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようとする。
思考力、判断力、表現力等	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようとする。
学びに向かう力、人間性等	美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

(中学校学習指導要領解説 美術編)

高等学校芸術科(美術・工芸)で育成を目指す資質・能力

資質・能力	美術			工芸		
	I	II	III	I	II	III
知識及び技能	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようとする。	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようとする。	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を追求し、個性を生かして創造的に表すことができるようとする。	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようとする。	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を追求し、個性を生かして創造的に表すことができるようとする。	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を追求し、個性豊かで創造的に表すことができるようとする。
思考力、判断力、表現力等	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようとする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようとする。	造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性を生かして発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようとする。	造形的なよさや美しさ、表現の意団と創意工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから個性豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようとする。	造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意団と創造的な工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようとする。	造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意団と工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから個性を生かして発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようとする。
学びに向かう力、人間性等	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。	主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、美術文化を尊重し、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。	主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。	主体的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。	主体的に工芸の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、工芸の伝統と文化を尊重し、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。	主体的に工芸の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、工芸の伝統と文化を尊重し、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。

高等学校美術科で育成を目指す資質・能力

資質・能力	美術科
知識及び技能	美術に関する専門的で幅広く多様な内容について理解を深めるとともに、独創的・創造的に表すことができるようとする。
思考力、判断力、表現力等	美術に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせ、創造的な思考力、判断力、表現力等を育成する。
学びに向かう力、人間性等	主体的に美術に関する専門的な学習に取り組み、感性を磨き、美術文化の継承、発展、創造に寄与する態度を養う。

(高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽・美術・工芸・書道)編 音楽編 美術編)

3 各分科会のテーマと内容

【幼稚園・保育園】ワクワク！

・手や体全体を働かせた造形活動

～「出会いに関わる」を楽しむ、「感じ考える」を楽しむから育つもの～

子供たちの身近な生活環境の中には、心を動かすものやことがたくさんある。様々な形、色、手触り、動き、音に出会い、それらに関わったり、感じたり、触れたりすることを楽しむことを通して、造形活動は始まっていく。子供たちが、手や体全体、その感覚を働かせ、ワクワクしながら表現していく幼児の造形活動の「意味」と「役割」について、共に考えていきたい。幼児期の造形活動を、幼児の成長としの方法として考察をしていきたい。

【小学校】ドキドキ！

・自分の感覚を通して感性を働かせ、思いを大切にして表したり見たりする造形活動

砂場で夢中になって山やトンネルをつくったり、絵の具が水に溶ける様子に目を輝かせて見つめたり、粘土の感触を楽しみながら没頭したりと、図画工作科（以下、図工）の時間にはいつも心をときめかせている子供たちがいる。「わあ！先生、見て、見て！」と歓声を上げる先には、その子にとっての大きな“発見”と“感動”がある。また、「えっ！？それどうなってるの？」「どうやったの？」と、友達どうしで発見や感動を伝え合っている姿も見られる。“発見”と“感動”的合間には、「あれ？どうしたらいいのかな？」という「問い合わせ」も生まれ、子供たちはそれを解決しようと奮闘していく。そして、また新たな発見に出会う。そんな幾つもの発見や感動に立ち会えるのも、図工の時間の醍醐味といえる。

子供たちが自分の感覚を通して感性を存分に働かせ、発見や感動にドキドキと心をときめかせながら進めていく造形活動を、どのように仕組んでいくことができるのか、そのノウハウを皆さんと共有していきたい。また、6年間という小学校の長い年月の中で、“発見”と“感動”がどのように変化し、中学校へとつながっていくのかも探っていきたい。

【中学校】キラメキ！

・感性を豊かにし、思いをもって表現したり感じ取ったりする創造活動

中学校の美術の時間には、どのような発見と感動が起こるのだろうか。「わあ！」「お～！」と、感動が巻き起こる場面もあるだろう。あるいは、ゆっくりじっくりと、自己の表現に向き合いながら、「あっ！」と何かを発見する瞬間や、心の中にじんわりと感動を生む場面もあるだろう。様々な“発見”と“感動”的現れ方が想像される。例えば、表現活動では、「どうしようかな？」から始まり、「こうしてみようかな」と発想していく。「それにはどうしたらいいかな？」という「問い合わせ」が生まれ、これまでの経験を総動員して考え、「こうしてみよう」と思い付き、試みる。そして、「あれ？うまくいかないぞ。どうしよう？」と新たな「問い合わせ」に出会い、試行錯誤を続け、表現を追求していく。その過程には、きっとたくさんの「あっ！」という発見と「お～！」という感動があることだろう。最後に「やった！うまくいった」と、ニヤリと笑みを見せる姿がたくさん見られたら、私たちもうれしい。このことは鑑賞の活動でも同様である。そうした試行錯誤の中にある発見と感動には、生徒たちの力を育む大きな役割があると考える。

生徒たちが、思いをもって表現や鑑賞に挑み、試行錯誤していく中でたくさんの発見と感動に出会い、創造活動の喜びを味わいながら、感性を豊かにしていく、そんな授業について、語り合

いたい。

【高等学校】ワンダフル！

・感性を高め、意図に応じて表現したり見方や感じ方を深めたりする創造活動

生徒たちが、幼稚園・保育園・小学校・中学校と体験してきた造形・美術の学びの中には、きっとたくさんの発見と感動があったに違いない。それらの発見と感動の経験は、生徒たちの感覚を通して感性を豊かに育んできたことだろう。そして、“発見”と“感動”は学びの原動力ともなり、新たな学びへと誘ってくれる。では、高等学校では、どんな発見や感動が求められるのだろう。山梨では、めざす子供たちの姿を「感じ、考え、試みる子供たち」と設定し、研究を進めてきた。

柔軟で多様な視点をもち、楽しみながら創造的に探究していく力を育むために、どのような発見や感動を、どのような場面で仕組んでいったらよいのか。生徒たちが、発見と感動を基に、感性を高めながら、自分の思いをもって追求していく、そんな創造活動について、皆さんと考えていきたい。

提案者等一覽

提案者等一覧

(提案、司会、記録、助言またはファシリテーター、総括助言者)

校園種	テーマ・内容										
○“発見”と“感動”的現れが発達段階で、話題も焦点化しやすいよう、校園種別・領域別に全7分科会で構成する。 ○各分科会は、山梨県と各都県の提案を中心に討議を行う。											
【幼稚園・ 保育所】	<p>ワクワク！</p> <p>・手や体全体を動かせた造形活動～「出会い関わる」を楽しむ、「感じ考える」を楽しむから育つもの～ 子供たちの身近な環境や生活の中には、心を動かすものやことがたくさんあります。様々な形、色、手触り、動き、音に出会い、それらに関わったり、感じたり、触れたりすることを楽しむことを通して、造形活動は始まっています。子供たちが、手や体全体、その感覚を動かせ、ワクワクしながら表現していく造形活動の「意味」や「役割」について、共に考えていきたいと思います。</p>										
①	<p>総括助言者 安藤 聖子(元 白百合女子大学教授) アドバイザー(助言) 伊藤 美輝(元 山梨学院短期大学教授)</p> <table border="1"> <tr> <td>山梨</td> <td>発表：岩田乃江留（いづみ幼稚園） 山田由美子（南西保育園） 深堀 香（岩崎保育園） 天野 未希（いづみ幼稚園） 河西 藍（南西保育園） 日原愛咲美（岩崎保育園） 3歳児・5歳児 0～2歳児 3歳児・5歳児</td> </tr> <tr> <td></td> <td>司会：石野公之輔（いづみ幼稚園） 記録：天野未希（いづみ幼稚園） 加藤 淩（南西保育園） ファシリテーター：窪田 真敏（甲府市立北東中学校）</td> </tr> </table>			山梨	発表：岩田乃江留（いづみ幼稚園） 山田由美子（南西保育園） 深堀 香（岩崎保育園） 天野 未希（いづみ幼稚園） 河西 藍（南西保育園） 日原愛咲美（岩崎保育園） 3歳児・5歳児 0～2歳児 3歳児・5歳児		司会：石野公之輔（いづみ幼稚園） 記録：天野未希（いづみ幼稚園） 加藤 淩（南西保育園） ファシリテーター：窪田 真敏（甲府市立北東中学校）				
山梨	発表：岩田乃江留（いづみ幼稚園） 山田由美子（南西保育園） 深堀 香（岩崎保育園） 天野 未希（いづみ幼稚園） 河西 藍（南西保育園） 日原愛咲美（岩崎保育園） 3歳児・5歳児 0～2歳児 3歳児・5歳児										
	司会：石野公之輔（いづみ幼稚園） 記録：天野未希（いづみ幼稚園） 加藤 淩（南西保育園） ファシリテーター：窪田 真敏（甲府市立北東中学校）										
【小学校】	<p>ドキドキ！</p> <p>・自分の感覚を通して感性を動かせ、思いを大切にして表したり見たりする造形活動 砂場で夢中になって山やトンネルをつくったり、絵の具が水に溶ける様子に目を輝かせて見つめたり、図工の時間にはいつも心をときめかせている子供たちがいます。「わあ！先生、見て、見て！」と歓声を上げる先には、その子供にとっての大きな「発見」や「感動」があります。「発見」と「感動」の合間には、どうしたらしいかという「問い合わせ」も生まれ、子供たちはそれを解決しようと奮闘し、また新たな「発見」に出会います。そんな幾つもの「発見」や「感動」に立ち会えるのも図工の時間の醍醐味といえるでしょう。子供たちが自分の感覚を通して感性を存分に動かせ、「発見」や「感動」に心をときめかせながら進めていく造形活動を、どのようにつづっていくことができるのか、また、6年間という小学校の長い年月の中で、「発見」と「感動」がどのように変化し、中学校へとつながっていくのかも探っていきたいと思います。</p>										
②	<table border="1"> <tr> <td>表現(造形遊びをする活動)</td> <td>総括助言者 岡田 京子(東京家政大学教授)</td> </tr> <tr> <td>山梨</td> <td>発表：秋山 萌（甲府市立甲運小学校） 司会：田所 良通（南アルプス市立八田中学校） 記録：浅川 和子（南アルプス市立櫛形中学校） 助言：塚原 英樹（南アルプス市立若草中学校）</td> </tr> <tr> <td>千葉</td> <td>発表：桑原小百合（千葉市立生浜東小学校） 司会：寺井 智史（千葉市立作新小学校） 記録：毛利麻衣子（千葉市立磯辺小学校） 助言：平澤 典之（千葉市立幸町小学校）</td> </tr> <tr> <td>茨城</td> <td>発表：堀江 陽子（水戸市立河和田小学校） 司会：鈴木 武蔵（小美玉市立小川北義務教育学校） 記録：住谷 浩（水戸市立内原小学校） 助言：堀江 昌代（水戸市立石川小学校）</td> </tr> </table>			表現(造形遊びをする活動)	総括助言者 岡田 京子(東京家政大学教授)	山梨	発表：秋山 萌（甲府市立甲運小学校） 司会：田所 良通（南アルプス市立八田中学校） 記録：浅川 和子（南アルプス市立櫛形中学校） 助言：塚原 英樹（南アルプス市立若草中学校）	千葉	発表：桑原小百合（千葉市立生浜東小学校） 司会：寺井 智史（千葉市立作新小学校） 記録：毛利麻衣子（千葉市立磯辺小学校） 助言：平澤 典之（千葉市立幸町小学校）	茨城	発表：堀江 陽子（水戸市立河和田小学校） 司会：鈴木 武蔵（小美玉市立小川北義務教育学校） 記録：住谷 浩（水戸市立内原小学校） 助言：堀江 昌代（水戸市立石川小学校）
表現(造形遊びをする活動)	総括助言者 岡田 京子(東京家政大学教授)										
山梨	発表：秋山 萌（甲府市立甲運小学校） 司会：田所 良通（南アルプス市立八田中学校） 記録：浅川 和子（南アルプス市立櫛形中学校） 助言：塚原 英樹（南アルプス市立若草中学校）										
千葉	発表：桑原小百合（千葉市立生浜東小学校） 司会：寺井 智史（千葉市立作新小学校） 記録：毛利麻衣子（千葉市立磯辺小学校） 助言：平澤 典之（千葉市立幸町小学校）										
茨城	発表：堀江 陽子（水戸市立河和田小学校） 司会：鈴木 武蔵（小美玉市立小川北義務教育学校） 記録：住谷 浩（水戸市立内原小学校） 助言：堀江 昌代（水戸市立石川小学校）										
③	<table border="1"> <tr> <td>表現(絵や立体、工作に表す活動)</td> <td>総括助言者 西村 徳行(東京学芸大学教授)</td> </tr> <tr> <td>山梨</td> <td>発表：市川 安紀（甲州市立塩山北小学校） 司会：岡田あさみ（笛吹市立御坂中学校） 記録：青木可奈子（甲州市立奥野田小学校） 助言：三枝 清美（山梨市立日下部小学校）</td> </tr> <tr> <td>埼玉</td> <td>発表：坂藤 順一（神川町立丹莊小学校） 司会：小林 玲子（美里町立大沢小学校） 記録：吉原 彩乃（美里町立松久小学校） 助言：大谷 裕紀（熊谷市立妻沼西小学校）</td> </tr> <tr> <td>神奈川</td> <td>発表：山中 紗恵（川崎市立虹ヶ丘小学校） 司会：鈴木 貴久（川崎市立新城小学校） 記録：能登 啓允（川崎市立高津小学校） 助言：緑川 葉子（川崎市立大谷戸小学校）</td> </tr> </table>			表現(絵や立体、工作に表す活動)	総括助言者 西村 徳行(東京学芸大学教授)	山梨	発表：市川 安紀（甲州市立塩山北小学校） 司会：岡田あさみ（笛吹市立御坂中学校） 記録：青木可奈子（甲州市立奥野田小学校） 助言：三枝 清美（山梨市立日下部小学校）	埼玉	発表：坂藤 順一（神川町立丹莊小学校） 司会：小林 玲子（美里町立大沢小学校） 記録：吉原 彩乃（美里町立松久小学校） 助言：大谷 裕紀（熊谷市立妻沼西小学校）	神奈川	発表：山中 紗恵（川崎市立虹ヶ丘小学校） 司会：鈴木 貴久（川崎市立新城小学校） 記録：能登 啓允（川崎市立高津小学校） 助言：緑川 葉子（川崎市立大谷戸小学校）
表現(絵や立体、工作に表す活動)	総括助言者 西村 徳行(東京学芸大学教授)										
山梨	発表：市川 安紀（甲州市立塩山北小学校） 司会：岡田あさみ（笛吹市立御坂中学校） 記録：青木可奈子（甲州市立奥野田小学校） 助言：三枝 清美（山梨市立日下部小学校）										
埼玉	発表：坂藤 順一（神川町立丹莊小学校） 司会：小林 玲子（美里町立大沢小学校） 記録：吉原 彩乃（美里町立松久小学校） 助言：大谷 裕紀（熊谷市立妻沼西小学校）										
神奈川	発表：山中 紗恵（川崎市立虹ヶ丘小学校） 司会：鈴木 貴久（川崎市立新城小学校） 記録：能登 啓允（川崎市立高津小学校） 助言：緑川 葉子（川崎市立大谷戸小学校）										

校園種	テーマ・内容		
④	【小学校】 鑑賞 総括助言者 奥村 高明(元 日本体育大学教授)		
	山梨	発表：加賀美信行（山梨大学教育学部附属小学校） 司会：三枝 陽（甲府市立池田小学校） 記録：井澤映里子（甲府市立甲運小学校） 助言：鷹野 晃（北杜市立長坂中学校）	
	長野	発表：久田ひかり（岡谷市立川岸小学校） 司会：長崎 至宏（長野市立古里小学校） 記録：青木 香織（長野市立川中島中学校） 助言：柄澤 武志（南箕輪村立南部小学校）	
	静岡	発表：柳内 志穂（藤枝市立朝比奈第一小学校） 司会：白井佳代子（島田市立金谷中学校） 記録：黒田 有美（藤枝市立岡部小学校） 助言：八木 千景（藤枝市立葉梨中学校）	
⑤	【中学校】 キラメキ！ ・感性を豊かにし、思いをもって表現したり感じ取ったりする創造活動 中学校の美術の時間には、どのような「発見」と「感動」が起こるのでしょうか。感動が巻き起こる場面もあれば、ゆっくりじっくりと自己の表現に向き合いながら、何かを発見する瞬間や、心の中にじんわりと感動を生む場面もあり、様々な「発見」と「感動」の現れ方が想像されます。感性を豊かにして、たくさんの「発見」と「感動」に出会い、創造活動の喜びを味わう、そんな授業について、語りたいと思います。		
	表現 総括助言者 新野 貴則(山梨大学教授)		
	山梨	発表：百瀬 淳一（大月市立大月東中学校） 司会：佐々木葵泉（富士吉田市立吉田中学校） 記録：廣瀬 美雨（富士吉田市立明見中学校） 助言：中島 博美（甲府市立北中学校）	
	東京	発表：小林 奈央（国分寺市立第一中学校） 司会：高澤健太郎（江東区立辰巳中学校） 記録：橋川 小夜（中野区立中野東中学校） 助言：松永かおり（世田谷区立玉川中学校）	
⑥	新潟	発表：丸山 広大（新潟大学附属新潟中学校） 司会：田代 豪（新潟市立巻南小学校） 記録：山際 保男（新潟市立東石山中学校） 助言：渡邊 敏尚（新潟市立光晴中学校）	
	鑑賞 総括助言者 三澤 一実(武藏野美術大学教授)		
	山梨	発表：秋山 菜穂（韮崎市立韮崎東中学校） 司会：奥秋 由香（北杜市立高根中学校） 記録：輿石貴代美（韮崎市立韮崎北東小学校） 助言：鷹野 敦貴（山梨県教育庁義務教育課）	
	群馬	発表：藤島 奈未（太田市立尾島中学校） 司会：大島 浩二（館林市立第五小学校） 記録：多胡 慎平（群馬大学共同教育学部附属中学校） 助言：藤崎敬太郎（群馬県教育委員会）	
⑦	栃木	発表：木下 大輝（宇都宮市立若松原中学校） 司会：原 加代子（宇都宮市立横川中学校） 記録：大野 裕美（宇都宮市立陽南中学校） 助言：柴 栄（栃木県教育委員会）	
	【高等学校】 ワンダフル！ ・感性を高め、意図に応じて表現したり見方・感じ方を深めたりする創造活動 生徒が、中学校までに体験してきた美術の学びの中には、きっとたくさんの「発見」と「感動」があったことでしょう。それらの経験は、生徒たちの感覚を通して感性を豊かに育み、学びの原動力となって、新たな学びへと誘ってくれるでしょう。では、高等学校では、どんな「発見」や「感動」が求められるのでしょうか。山梨では、めざす子供の姿を「感じ、考え、試みる子供」と捉えています。柔軟で多様な視点をもち、楽しみながら創造的に探究していく力を育むために、生徒たちが、「発見」と「感動」を基に、感性を高めながら、自分の思いをもって追求していく、そんな創造活動について、皆さんと考えていきたいと思います。		
	国際バカロレアを中心とした実践提案 総括助言者 神野 真吾(千葉大学准教授)		
	山梨	発表：天野 圭（山梨県立甲府西高等学校） 司会：山本 裕子（山梨県立甲府東高等学校） 記録：風間功仁子（山梨県立白根高等学校） ファシリテーター：小田切 武（身延町立身延中学校）	協力：太田 智子（山梨県立美術館）

分科会提案

幼稚園・保育所の用語に関する注釈

文中に「造形あそび」という表記があるが、小学校の「造形遊び」とは異なるため、本来ならば「あそびによる造形」あるいは「あそびによる制作」または「あそびによる表現活動」と記載されるものである。

乳幼児の活動は小学校の「造形遊び」とは異なった目的をもつことを確認しておく必要がある。乳幼児の表現活動の主たる目的が作品をつくることではないことをご理解いただきたい。

※本来、幼稚園・保育所に関する研究において、「子ども」あるいは「こども」（現場ではこの表記：子どもの主体性や人格をどう見つめるかという姿勢の象徴である）を用いているが、用語の統一から「子供」と表記している。

本研究では、0歳児～2歳児という発達幅が大きく、感性の芽生えの時期に保育者自身を含めた環境がどの様に子供に影響し、発達を促していくか、乳幼児の「感性」の育ちの理解を深めることを目的とする。

「出会い・関わり」を楽しむ造形あそび ～感覚遊びを通した感性の芽生えを育む～

山梨県甲府市 南西保育園
山田由美子・河西 藍

■提案

(1) 保育における「表現」と「感性」とは

保育者は、乳幼児期における「表現」とは、子供の動き全てが表現であると捉えている。また「感性」というのは、子供自身にとっての価値付けプロセスと考え、子供の出会い環境全てが感性を育む機会になりえる。そのため、造形活動だからと作品づくりを目的として活動を行うことはせず、子供の主体性が活動の根本にあり、子供の「これなに?」「おもしろそう」「楽しい」という思いを大切にしており、子供と保育者の関わり合いや子供理解が最も重要視される。本園では、経験・体験を通して子供の可能性を伸ばすことを保育目標として、保育者は日々の保育に取り組んでいる。

(2) 表現活動の基礎を育む0歳児期～2歳児期

保育所保育指針では、乳児の身体的・社会的・精神的発達を促すために、生活や遊びの充実が重要であり、特に1歳以上3歳未満の子供については、感性や表現を重視した活動が求められている。3歳児以降の夢中になって遊びながら充実感を味わう造形活動や表現遊びにつながる感覚機能の基礎を築くとしている。

(3) 発達幅の大きい0～2歳児期での題材選定

3歳未満の子供は短期間で著しい発達を遂げ、個人差が大きいため、個々の子供に応じた関わりが重要となる。また、乳児から2歳児までの成長が3歳児以降の活動の基盤となることを踏まえ、子供の発達・実態に沿ったねらいを明確にし、発達を促す主体的な遊びや活動、環境構成を検討する必要がある。そこで、療育などにも用いられるセンサリーグッズを題材とし、年齢ごとの子供の姿や関わり方を基に、3歳未満児期の感性の育ちと、保育者の環境構成や関わりに焦点を当て、育ちの大きな流れを追い、考察することで、子供にとっての感性の育ちを促す遊びの意義や保育者の役割を確認していく。

センサリーグッズの活動の様子

(環境構成は0～2歳児 共通)

(1) 0歳児

0歳児は身体的発達が著しい時期で、様々な能力が向上し、自分の体を認識する力が高まる。認知機能や感覚は「遊び」や「環境」から多大な影響を受ける。保育者は、子供たちの様子を捉え、「ぴちゃぴちゃだね」「赤いね」と働きかけを行

うことで、次第に状態と言葉を結び付け、主体的に関わろうとする様子が観察できた。

(2) 1歳児

1歳児期では、子供は自己主張やコミュニケーションといった言語と人間関係での発達が著しい。自我が芽生え、自分の意志を示すようになる。保育者は子供が赤いボトルを「あお」といった際に、「赤だよ」と訂正するのではなく、自己主張をする姿というのも一種の自己表現活動として捉え、「青色に見えるんだね」等の子供の感性を尊重し受け止めながら、さらに興味関心が広がる関わりを行っている。じっくり注視して観察したり、様々な違いを見付けたりするなど関心を広げていく様が観察できた。

(3) 2歳児

2歳児期は運動能力や言語能力が急速に発展し、自立心や自己主張が強くなる時期であり、大きさや形の理解、好きな色の選択、イメージを形にする興味も芽生える。また、2歳児の前半と後半では様々な発育発達に大きな差が出てくるので、個々の発達に応じたアプローチや配慮が大切となる。同じ赤いボトルでも「いちごジュース」や「リンゴジュース」等、それぞれが様々な物に見立てている子供のイメージを保育者が仲介し、子供同士で遊びを展開する様子も観察できた。

■成果と課題

1 成果

今回は触感や色彩感覚を刺激する「センサリーグッズ」を用いて0歳児から2歳児の感性の育ちと保育者の環境構成や関わりに焦点を当てたことにより、表現活動の基礎となる育ちの流れ、それぞれの年齢での保育者の関わり方や環境設定による子供の動きの違いを観察できた。こうした未満児クラスの様々な遊びや活動の連続性が、以上児クラス以降の科学遊びや自然への関心、音楽や造形などの表現活動に向けて主体的に活動する姿につながる、「遊びの礎」となっていると再確認できた。

2 課題

今後、この様な子供の発達を促す幅広い活動環境や機会の創出を、絶え間なく継続、発展していくこと。そのためには、保育者の更なる子供理解や多角的なアプローチが重要であり、資質向上に努めていきたい。

本考察では、保育における造形あそびを、子供の成長と結び付いた「学びのプロセス」として捉え、その本質的意義と保育者の関わり方について考察することを目的とする。

「表現するっておもしろい！ ～子どもの心に寄り添い、 共に感じる造形あそび～」

山梨県甲州市 岩崎保育園
深堀 香・日原 愛咲美

■提案

近年、教育現場では「主体性」が重要なキーワードとして挙げられている。当園では、その主体性の土台となる「自己肯定感の育ち」を出発点とし、乳幼児期においては、「あそび」や「生活」を通じて「自分で学ぶこと」を大切にした保育を行っている。また、子供の行動・表情・発言から気持ちを受け止める視点をもち、その上で適切に援助することを、日々の保育において実践することを心がけている。

本発表では、本園での日常の保育を振り返り、「造形あそび」での、身近な素材や道具を使い、感じたこと・考えたことを表現する二つの事例（3歳児と5歳児）を基に、それぞれのプロセスにおける成長に関わるその意義を考察する。また、同時に保育者の関わりの視点についても考察したい。

■実践事例

(1) 3歳児の事例（4月）：恐竜づくり

3歳児A君は、妹の誕生により登園を渋るようになり、祖父におぶわれてスマホを見ながら登園する日が続いていた。週末に家族で恐竜博物館を訪れたことをきっかけに、週明けには母親と登園。依然として別れを渋っていたが、保育者が「恐竜つくってみる？」と声を掛けると、「つくる！段ボールで大きいのをつくりたい」と気持ちが切り替わった。

「ぼく、力持ちだから段ボール3枚運べるよ」と笑顔で材料を運ぶA君の姿に、他の子供たちも集まり始めた。図鑑を見ながら話し合い、ティラノサウルスをつくることに決定。A君が「段ボール、ハサミじゃ切れない」とつぶやくと、保育者が段ボールカッターを提案。B君が「養生テープが切れない」と困っているところへ、4歳児のC君が「はさみで切ればいいよ。切ってあげるね」と加わり、異年齢の関わりも生まれた。

ミラーテープ、ローラー絵の具、クレヨン、マジック、色鉛筆、セロハンテープなど様々な道具を使い、段ボールの切れ端を足や首に見立てたり、自分の名前を書きたいと話したりするなど、自分なりの方法で世界と関わり、自らの意思で「やってみたい」「こうしてみたい」と気持ちを存分に表現していた。

天井から吊るされた恐竜を見て、他のクラスの子供や保護

者が声を掛けてくれると、A君は「僕がつくったんだよ。段ボール3枚持ったんだよ」と誇らしげに語っていた。



恐竜づくりの活動の様子

(2) 5歳児の事例（8月）：「色の話」

お盆の時期に、命の平等について考える導入として、「赤・青・黄色のうち、どの色が一番大事？」と、子供たちに問い合わせてみたところ、次のような答えが返ってきた。

- ・「赤が大事」→火の色だから
- ・「青が大事」→水の色だから
- ・「全部大事」→ひとつの色だけではその色にしかならないけど、3つあればいろんな色がてくれる

子供たちは色を通して、自分なりの価値観や世界観を言葉にし、表現していた。

■成果と課題

1 成果

(1) 造形あそびは、保育における5領域全てが含まれる活動であり、製作する行為は、子供が自己表現する重要な手段であることが再確認された。

(2) 混色遊びを繰り返し体験してきたことと、個々の体験のイメージが結び付き言葉の表現につながった。また、受容と共感を通じて自己肯定が育まれ、他者の意見を受け入れる雰囲気が醸成されていた。

2 課題

(1) 造形あそびのプロセスに含まれる意義と「面白そう」「やってみたい」といった幼児の内面に触れる視点を大切にすることを、今後より多くの保育者や保護者に広く伝えたい。

(2) 「教える・伝える」ことにとどまらず、子供の気付きや感性に丁寧に寄り添い、自由な表現を支える環境を保障することで、感覚・思考・表現の育ちへとつなげていく姿勢を今後も重視していきたい。

子供の好奇心を軸にし、日々の遊びや経験が自然につながり合うような環境づくりを行う中で、造形あそびを幼児の「探究の過程」として捉える視点が生まれた。本発表では、「水」をめぐるあそびの展開を通して、子供の表現と探究を支える保育の可能性を探る。

探究の過程としての造形あそび

山梨県甲府市 いづみ幼稚園
岩田 乃江留

■提案

本園では、子供たちの「やってみたい」「どうしてだろう?」という気持ちが、日々のあそびや生活の中で芽生え、行動や表現へと広がっていくよう保育の再構成に取り組んでいる。この試みの背景には、従来の保育が活動ごとに分断され、子供の関心や経験がつながりにくくことが課題だと感じてきた。そこで、幼稚園生活全体を「探究」として再構成し、全学年で共通テーマを設定、そのテーマを軸に保育を組み立てることで、子供の気付きや関心が遊びや生活を行き来し、つながっていく環境づくりを試みている。こうした取組の中で、造形あそびを幼児にとっての「探究の方法」として捉える視点が生まれた。

完成品を目指す製作活動とは異なり、造形あそびは、子供が日常の中で身近な素材や現象（例えば色の変化、水の流れ、光と影など）に出会い、それを試し、それ自体があそびとして広がっていく。そこには「なんだろう?」「おもしろい!」「もっとやってみたい」「もっと知りたい」といった思いが連なり、環境との関わりや他者とのやりとりを通して、発想や問い合わせが次へつながっていく。こうした「造形あそびを子供の探究の方法として捉え、生活の中に自然に息づくものとして見る視点」は、本園の保育をより子供主体のものへと変化させている。

本発表では、造形あそびを「探究の過程」として捉え直し、共通テーマを軸に活動や経験をつなぐことで、子供が関心をもち続け、気付きや問い合わせを深めていく保育のあり方を提案する。



まるで実験室のような色水づくり。思い思いに試し、工夫しながら、夢中で水と色の変化を楽しんでいた。

●実践事例

「水とあそぶ：色水からひろがる子供の探究」

5歳児 47名 2025年5月～6月

この事例は、子供の偶然の発見から色水づくりが始まり、保育テーマ「水」と結び付いていったものである。あそびの具体的な展開や保育者の関わりについては当日発表する。

展開の流れ

1 偶然の発見（5月下旬）

ある園児が紙コップにサインペンで色を塗り、水を入れると色水になることを発見した。

2 あそびの広がり

関心がクラス全体に広がり「色水工場」が誕生。混色や、色のコップづくりなど、多様な試みが見られた。この様子を見ていた年少の園児も、その場で真似をして遊び始めた。

3 テーマとの接続（6月）

絵本や日々のやりとりを通して「水」にまつわる出来事や現象に目を向ける場面が増え、生活の中で「水」への関心が高まった。

4 新たな発展

「土から湧き出た水は透明」ということを知り、泥水を透明な水にする試みへと関心が広がった。

■成果と課題

造形あそびを探究の方法としてより活かすために

1 成果

- ・「おもしろい」「もっとやってみたい」という思いが継続し、試行を重ねる姿が見られた。
- ・あそびが他学年にも広がった。
- ・保育者が共に探究する姿勢へと変化した。
- ・日常的に行なっている「子供かいき（対話）」では、互いの考え方や感じ方の違いを受け止め合い、想像を膨らませるやりとりが生まれている。このような場が、子供たちが安心して自分の思いや発想を表現する土台となっていると感じる。

2 課題

- ・日常の経験と造形表現のつながりを観察し、保育者同士で共有する。
- ・子供が自由に探し、選び、試すことのできる多様な素材や道具を常時利用できるように環境を整える。

未来を自らの手で切り拓いていくためには、既成の枠にとらわれず柔軟に発想し、多様な価値観に向き合いながら表現を通して自分らしく生きる力が求められる。その土台となるのが、視点の転換や構成力、根拠ある意思決定の力である。こうした資質・能力を育成するためには、子供自身が問い合わせをもち、イメージを広げて試みるプロセスを丁寧に保障することが不可欠である。教師は、発見を引き出す問い合わせや場の設定を通して、子供が自らの見方・考え方を働かせながら創造的に表現できるよう支えることが重要となる。

ここから見ると

山梨県甲府市立甲連小学校
秋山 萌

■提案

1 問題の所在

図画工作科における「造形遊び」は、児童の自由な発想や主体的な活動を促す学習内容である。しかし、高学年になるにつれ、「上手に描けない」「考えるのが難しい」などの理由から苦手意識をもつ児童が増える傾向がある。本学級でも、特に「造形遊び」に対する興味が薄く、「何をつくればよいか分からない」「想像するのが苦手」と感じる児童がいた。こうした状況から、造形遊びにおいて児童が主体的に活動できるような題材設定や指導の工夫が必要であると考えた。

2 授業実践

- (1) 題材名:「ここから見ると」
- (2) 領域等: A表現 (1) ア、(2) ア
B鑑賞 (1) ア〔共通事項〕(1) ア、イ
- (3) 教科書: 日本文教出版「図画工作5・6下」
- (4) 題材について

本提案で扱う題材は、視点や場所を変えてものを見る体験を基に、自分なりの視点から発想を広げて造形的な活動をするものである。校舎という身近な場所の奥行きやバランスに着目しながら、視点の変化による見え方の面白さを感じ取り、それを生かして活動をつくる。普段見慣れた場所を新たな視点で捉え直し「ここから見ると違って見える」「この角度が面白い」といった気付きから活動を発展させていくことをねらいとしている。

空間の奥行きやバランスといった造形的な要素に意識を向けさせることで、児童自身が見方や感じ方を深め、造形的な活動へとつなげることを重視した。活動を通して「感じる・考える・試みる」という学びのプロセスが有機的に展開し、児童の主体的な学びと創造的な表現が生まれるように授業を構成した。

(5) 実践を振り返って

「場所の奥行きや特徴を生かした造形的な活動」に挑戦する中で、児童の主体的な学びを促すことができた。ICTの活用、

鑑賞活動との往還的な指導、学級内の協働的な雰囲気づくりが、児童の発想力や表現力の向上につながった。児童が身近な空間に「発見」と「感動」をして、他者と共有しながら豊かな造形的な活動をつくっていくことに挑戦する学びを通して、空間を読み取る力、創造的に表現する力、自ら考え、価値付ける力といった資質・能力を育てることができる題材であったと考える。この学びは、既成の枠にとらわれず柔軟に発想し、自らの考えをもって未来を切り拓いていくための基盤となる。今後も問い合わせや場の設定を起点とした造形的な対話のある授業を大切にしていきたい。



児童の活動の様子

■成果と課題

1 成果

(1) 発見と感動につながる視点の育成

校内の写真やアート作品、実際の空間を活用した事前の働きかけにより、児童は奥行きやバランスに着目し、場所の特性を基にアイデアを出し合いながら造形的な活動を展開することができた。児童の空間に対する新たな見方が育まれた。

(2) 協働的な学びと自己表現の深化

Google meetを活用したリアルタイムでの働きかけや、随時設けた鑑賞や交流の場を通じて、児童同士が互いの表現を認め合い、助言し合う姿が見られた。結果として、造形的な活動に対する意欲が高まり、自身の表現意図を言葉で語る場面も増えた。

2 課題

(1) 広い活動空間での支援の難しさ

広範囲にわたる造形的な活動の中で、教師の支援が届かず、児童の「感じる・考える・試みる」といった学びのプロセスを十分に捉えきれない場面があった。今後は、活動の可視化や支援のタイミングをさらに工夫する必要がある。

(2) グループ活動における役割の偏り

グループ活動において自然発生的に役割分担がなされる中で、ある児童は空間的な感覚を働かせる役割に集中し、他の児童は作業的な役割に偏るといった状況も見られた。個々の学びの偏りを防ぐために、活動中に教師が問い合わせを工夫し、それぞれの児童の思考や感じ方に光を当てていく必要がある。

形や色を通して身近なものへの新しい意味や価値に気付くことで、生活をより豊かにしていくことができるであろう。その形や色の意味や価値に気付く力を育むことが、造形的な見方・考え方を働かせることであると考える。そこで、身近な環境の再発見に向けた題材と表現を認め合う活動を追求した。

身近な形や色に気付き価値や意味をつくりだす図画工作科のあり方 ～環境の再発見へ向けた題材と表現を認め合う活動を通して～

千葉県千葉市立生浜東小学校
桑原 小百合

■提案

本校は、豊かな自然に囲まれ、児童は日々たくさんの生き物と触れ合いながら生活している。また、第3学年の児童は、理科や社会などの教科でも生き物や地域との関わりを多くもつ。そこで、児童にとって愛着のある身近な環境を生かした題材の工夫によって、高い関心をもって学習に取り組むことができるのではないかと考えた。また、表現や鑑賞をする中で、互いを認め合う活動が新しい気付きや自信につながることとなるであろう。それにより、身近な形や色に気付き価値や意味をつくりだすこととなると考える。

身近な形や色に気付き価値や意味をつくりだすために二つの仮説を立てて検証していくこととした。

仮説1

題材の工夫と教科横断的な学習計画により、身近な形や色に意味や価値を見出すことができるであろう。

仮説2

鑑賞の仕方を工夫することで、身近な形や色に意味や価値を見出すことができるであろう。

三つの題材を通して研究主題にせまっていく。

①「見つけよう！しぜんの色」

教科書資料を用いて鑑賞活動を行い、自然を色という視点で捉えられるようにする。そこから身の回りにある自然の色へと視野を広げていく。見付けた身近な自然の色をタブレットPCで撮影し、その画像を見ながら感じたことを話し合うことで、身近にも様々な色があること、人によって色の見え方や感じ方が違うことに気付けるようにする。理科の生き物の観察や総合的な学習の時間の地域の特色について調べる学習を並行して行い、身の回りにある自然との関わりを意図的に多くするようにした。



鑑賞活動の様子

身近な自然の色を見付ける活動

②「見つけよう！しぜんの形+色」

総合的な学習の時間での地域で発掘された化石について調べる活動と関連させて、お気に入りの石を見付ける活動を行なった。形や色、それらの組合せによる感じ、触感、大きさ、位置、並べ方のリズムなどの違いや面白さに気付かせる。児童の興味・関心の広がりに合わせ、石以外の自然物との組合せにも着目させて、自分の好きなイメージをもつるようにする。歴史のある地域の特色を生かして、身近な自然の形と色を見つめることができるようにした。

③「お気に入りの場所をじょうかいします」

小さな自分がどこにいるのが面白いかを考え、気に入った自然物や場所を生かしながら、お気に入りの場所のイメージに合わせてつくり変えていく。お気に入りの場所がイメージに合わせて徐々に変化していく様子をタブレットPCで撮影し、ポートフォリオにしたものを見合いながら、なぜその場所を選び、どのようなイメージでつくったのかを紹介する。同じ場所であってもイメージによって変わっていくことに気付いたり、互いの表現を認め合いながら身近な環境への思いを深めたりしていけるようにした。

■成果と課題

1 成果

(1) 教科横断的に理科や総合的な学習の時間の学習と関連させることによって、図画工作科の時間において特別に形や色に着目するのではなく、日常生活において、身の回りの対象や事象の形に気付き、色を価値付け、意味付けすることができた。教科を超えて学ぶことで、一つの事象を多面的に捉える力が育まれると考える。

(2) 鑑賞方法の工夫によって、表現活動に対する自分の思いを明確にすることができた。他者に伝えるという目的意識をもちながら自身の表現を振り返ることにより、相対的に自分らしさを意識して表現に新しい価値をもたらすことができた。

2 課題

(1) 児童の思いを表現することに充足感を得るために、時間やコミュニケーションスキルが必要である。

(2) 図画工作科で身に付けられる資質・能力と他教科との関連性を図ることで、さらに学びを充実させていきたい。

身近な環境や材料に親しみながら、感じ取ったことを表現し、友人との関わりを通して自分の見方・考え方を深め、発想を広げる授業。

だんだん、くるくる、ベコベコボール

茨城県水戸市立河和田小学校
堀江 陽子

■提案

1 題材の設定について

本学級の児童は、図画工作に積極的に取り組むことができる。しかし、作品の製作が始まると、「何を表すか」を重視しすぎてしまい、題材の主題をうまく決められなかったり、自由な発想で手を動かすことが難しくなったりする傾向がある。また、失敗することをおそれて、体全体を使ったのびのびとした表現ができないでいる児童が多い。そこで、主題を設定しない造形遊びをすることで、児童たちが「つくる喜び」を実感できるようにした。また、つくり、つくりかえる体験を通して、作品のよさや面白さが深まっていく経験ができると考えた。

2 題材の手立て

【材料の工夫】

・身近な段ボールを材料として用いた。児童のこれまでの経験では、箱や板など既成の形でしか使ってこなかった。本題材では、「ねじる」「ちぎる」「水に濡らす」といった多様な方法で取り扱い、児童が材料の新たな可能性や表現方法の幅を発見し、つくる喜びを五感で感じ、造形活動をすることに感動できるようにする。

【場の設定】

・活動場所を校庭とし、児童が体を大きく使ってのびのびと製作活動に取り組めるようにした。特に、学校のシンボルである大イチョウの木の下で活動することで、普段とは異なる雰囲気の中で製作を行い、新たな発見を促すようにする。

【発見・感動の共有】

・本題材では、活動が発展して共同で製作に取り組むことが予想される。グループでの活動を促し、個々では思い付かなかった形や構成を発見したり、面白い形を共につくった感動を共有したりするようにする。

3 授業の実際

導入では、児童は道具を使わずに段ボールを扱うことに戸惑いを見せていた。しかし、教師が段ボールを破くと、それをきっかけに自分で思い付いた方法を試し始める姿が見られた。また、事前に用意していた水桶に気付いた児童が段ボールを濡らしてみると、それまで硬かった素材が柔らかくなることや、段ボールの中にあるデコボコした面が簡単に出てくることに感動し、驚きや面白さを発見した。こうした発見が

きっかけとなり、児童たちは自由に思い付くままに形づくりを進めていった。

展開では、活動が進むにつれ、ちぎる、ねじる、濡らす、丸めるなど、様々な手法を用いた多様な表現が見られるようになった。完成した作品を大イチョウの下に並べるよう声を掛けると、友人の作品に関心をもち、どのようにつくっていったのかを聞き合う姿も見られた。こうしたやり取りを通して、新しい表現方法や異なる視点を身に付けていった。さらに活動が深まる中で、児童同士が自然と協力し合い、共同で大きな作品をつくるなど、活動が発展していった。

終末は、児童がそれぞれの作品をお互いに鑑賞する時間を設けた。できあがった形を見ながら、「○○みたい」と見立て遊びを楽しむ姿が見られた。自分や友人の作品を写真に記録し、価値付けをすることで、自分の表現方法の工夫を振り返ったり、友人の思いに共感したりすることができた。



校庭での活動



ちぎった段ボールを水に濡らしている様子

■成果と課題

1 成果

- (1) 材料の工夫、場の設定をすることにより、本学級の課題であった、「自由な発想で手を動かすこと」「体全体を使ったのびのびとした表現」について改善が見られた。
- (2) 段ボールという材料の新たな表現方法の工夫に気付き、今後の製作に取り入れようとする意欲をもつ児童が現れた。違う材料を使う際にも、今回の経験を生かし、多様な表現方法が生まれることが期待できる。
- (3) 児童同士の自然なやり取りが生まれた。友達の発想や手法を取り入れ、自分の見方・考え方を深めながら、つくり、つくりかえることができた。

2 課題

授業の導入で、教師が先導して展開する形になってしまったので、児童が主体となって気付き、材料の工夫を考えられる課題を設定する必要がある。そうすることで、教師が想定していなかった表現方法や造形的な見方や考え方方が生まれるのではないかと考える。

〈小学校第一第3分科会 山梨県〉(小4)

本題材は、木材を切って組み合わせ、形にしていくことで、木材に親しみながら試行錯誤を重ね、新しい形を創り出す楽しさを存分に味わい、生活の中に息づく木材について改めて気付くことが期待できる。材料の特性等を体全体の感覚を通して感性を働かせながら、自分の手で生活をよりよいものに変えていく力を培っていきたい。

ギコギコからワクワク ～木でお家をもっと楽しく！～

山梨県甲州市立塩山北小学校
市川 安紀

■提案

1 題材について

本題材は、初めてのこぎりを使い、切った木材を組み合わせて、自分の生活をより楽しくするものをつくるというものである。木材で自分の生活をより楽しくするためのものを考え、材料としての木材の取り扱い方、材質などの特徴を理解して、思いに合わせてつくりだす学習として展開した。

2 学習の流れ

- (1) のこぎりの安全な使い方を知り、木材をいろいろな形に切ってみる。(1.5時間)
- (2) 切った形を積んだりつなげたり組み合わせたりして、つくりたいものを考える。
- (3) 接着剤や釘を用いてつなげたり並べたりして、つくりたいものを工夫してつくる。((2)(3)を合わせて5時間)
- (4) 完成した作品を互いに見合う。(0.5時間)

3 本題材でイメージした子供の姿と手立て

(1) 感じる場面

【イメージした子供の姿】

- ・のこぎりを使って木材を切る感覚を楽しんでいる。
- ・木の種類や向きによってのこぎりへの力の入れ方が異なることを感じている。

【手立て】

- ・安全かつ存分に切ることができる場の設定。
- ・様々な種類の木材の準備。
- ・子供の発見に共感する声掛け。



長さや硬さの異なる木材の準備

(2) 考える場面

【イメージした子供の姿】

- ・のこぎりの刃を入れる角度や木材の向きを考えている。
- ・どんな形に切ることができるか考えている。



どう切るか考え、縦に切った例

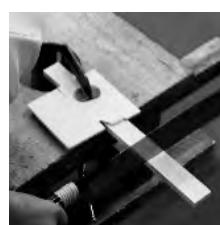
【手立て】

- ・教師による、のこぎりの刃を入れる角度や木材の向きを意識させるための声掛け。

(3) 試みる場面

【イメージした子供の姿】

- ・自分の考えた切り方を試している。
- ・刃を入れる角度や木材の向きをいろいろ試している。



刃を入れる角度を変えて試している例

【手立て】

- ・十分に試行錯誤できる材料の準備。
- ・ゲストティーチャーと教師による技術的な支援と安全面での指導。

■成果と課題

1 成果

- (1) いろいろな種類の木材を用意したことで、切り心地や刃の入れ方、力の入れ方などを感じ、多くの発見を引き出すことができた。
- (2) 活動時間を十分に確保したことや安全に活動できる場を設定することで、子供たちは体全体を使って「切る」ことを十分に味わい、思う存分試みることができていた。
- (3) ゲストティーチャーを招聘し、安全面・技術面でのサポートをしていただいたことにより、子供たちの学びが充実した。

2 課題

- (1) 子供たちの「感じ・考え・試みる」行為がより深まるように、「どういう声掛けをしていただくか」「どういう時に手助けしていただくか」など、事前にゲストティーチャーと綿密に相談をしておく必要性を感じた。

土粘土の特性を生かし、一人一人の児童が思い描く世界を仲間と協力して形にする活動を通して、創造力や表現力、他者と協働する力を培っていく。製作過程での対話や試行錯誤を重ねる中で、考えを深めたり、発想を得たりしながら、主体的に表現活動に取り組む態度の育成を図る。

夢のねん土ワールド

埼玉県神川町立丹荘小学校
坂藤 頌一

■提案

1 題材について

図工で扱う様々な素材を通して感じる「重さ」「匂い」「温度」「硬さ」「触感」などの感覚の発見、製作の中で感じる「きれい」「楽しい」「できた」「すごい」といった感動、それらが相互に繰り返されるような、ドキドキがいっぱいの授業を目指したいと考え、本校の3年生にとって初めて扱う素材である土粘土を題材として取り上げた。

また、個別最適な学びと協働的な学びを意識し、児童一人一人がつくりたいもののイメージをもつことに加え、それぞれの児童がもつ多様なイメージを共有し、合意形成を図りながら、他者と協働する活動となるよう、共同製作の題材とした。さらに、児童同士の対話を通して自分のイメージを広げ、新たな思いを発想すること、それらが連鎖していくことをねらいとした。

2 ねらいに迫るための手立て

- 手立て1：粘土遊びによって、児童のもつ思いを引き出す。
- 手立て2：同じ思いを基にしたグループを編成する。

3 授業の実際（3学年 児童数23名 4時間）

(1) 手立て1「粘土遊び（粘土体操）」第1時

6つの活動からなる粘土体操を行い、土粘土を扱う上での基本的な技能を体験させた。

- ①切り糸ちょっときん「かまきりの術」
- ②何個積めるか「団子積み競争」
- ③太く細く「よろよろ蛇」
- ④ぐるぐる巻こう「うずまき山」
- ⑤指先使って「つの・つの・の技」
- ⑥トンネル掘ろう「かきべら工事」

これらの活動を通して、土粘土の可塑性をはじめとする特性をはじめとする特性を味わうとともに、児童が自由に発想を広げるための「思いの土台」を築くことができた。第2・3時の作品製作の場面でも上記の技能が生かされていた。



つの・つの・のの技

(2) 手立て2「グループ編成」第2・3時

粘土遊びを通してもった思いをアイデアシートに表し、それをもとに共通の思いをもつ児童同士で2人以上のグループを編成した。各グループではイメージマップを作成し、それ

に基づいて共同製作を開始した。自分の思いをもって作品づくりに取り組むことで、自然と対話が生まれ、そこから新たな気付きや発想が生まれていった。

それらの「思考・判断・表現」を的確に評価するために、事前に児童の変容を見取るための指導と評価の計画を作成した。そこでは、C評価・B評価・A評価の具体的な姿やつぶやきを予想し、児童をB評価やA評価へと引き上げられるための指導・支援の方法を具体的に検討した。この計画をもとに、児童一人一人に合わせた声掛けを行ったり、中間鑑賞の時間を設けて、表現の工夫を全体で共有したりするなどの支援を行った。

(3) 「鑑賞」第4時

小人になったつもりで写真撮影を行い、ワークシートに気に入ったところなどを記入した。



作品製作の様子

完成作品



■成果と課題

1 成果

- 作品製作に入る前に粘土体操を実施することで、土粘土に十分に慣れ親しみ、スムーズに製作活動へ移行することができた。
- 共同製作としたことで、図工を苦手意識のある児童も、友人と協働しながら楽しんで活動に取り組むことができた。
- 中間鑑賞を取り入れたことで、粘土遊びで得た技法を生かしたり、他のグループの表現方法を参考にしたりする姿が見られた。
- 教師が完成作品を動画で撮影したことで、児童の作品の新たな見え方を提示できた。

2 課題

- イメージを基にしたグループ編成を行ったが、粘土体操を基にしたグループ編成の工夫をすれば、知識・技能がさらに生かされた作品になったのではないかと感じた。
- アクリル板上での製作であったため、活動空間が限られ、表現の広がりがやや制限された。場の設定を改善し、より自由度の高い製作環境を整える必要があった。
- 振り返りの中で、友達の活動の様子やよかった点についても考えられるようなワークシートの工夫が必要だった。
- 評価計画を作成したが、児童のつぶやきや気付きを捉えることは難しく、活動に生かすような声掛けが十分ではなかった。

「言葉を絵に表す」経験を通して、普段から使っている言葉に色や形のイメージがもてるようになるのではないか、言葉にイメージが生まれると言葉と関わっていくことがより楽しくなるのではないかと考え、この題材に取り組んだ。

言葉から想像を広げて

神奈川県川崎市立虹ヶ丘小学校
山中 紗恵

■提案

言葉を絵に表すことに難しさを感じるのは、子供たちだけではなく、指導する私たちも同じような思いを抱くのではないかだろうか。今回は実践からの気付きを通して、子供たちが自分のイメージを具体化できるようなカリキュラムデザインや、教師の手立てについてを紹介したいと思う。

1 学びの系統性を意識した題材づくり

本題材は絵に表す領域である。日本文教出版の教科書では、絵に表す領域の系統性が5つの分類で紹介されている。題材系統に沿って、必要な資質・能力を身に付けていければ、高学年で言葉を絵に表すことへの難しさが和らぐのではないかと考えた。本実践は高学年の実践だが、川崎市図画工作科研究会の常任委員が行った低学年・中学年の実践も合わせて紹介し、子供たちが身に付けた力について紹介する。

(1) 低学年—1年生「おはなし大いすき」

絵本「ちか100かいだてのいえ」の読み聞かせをもとに、自分たちの部屋を想像して絵に表す活動に取り組んだ。部屋に着目させることで想像を広げられるようにし、絵本の世界に入って活動ができるような設定をすることで、「自分の部屋に来た人とこんなことをしたい」と、想像を広げて絵に表すことができた。

(2) 中学年—4年生「言葉から感じて」

具象的な詩と抽象的な詩をいくつか読み、そこから感じたことをもとに絵に表した。技能面では、学年の初めに取り組んだモダンテクニックの表現方法と自分の思いをつなげながら表現できるような場を工夫した。目に見えないものを自分なりの表現で絵に表すことができた。

(3) 高学年—6年「言葉から想像を広げて」

言葉という抽象的なものからイメージを広げて絵に表す題材である。10編の俳句や短歌、短い詩の中から一つを選び、手立てをもとに想像を広げて絵に表した。今までの学習経験を生かして、自分のイメージを表現することができた。

題材の系統を意識し、付けたい力を明確にして取り組むことで、次の学年で求められている力がスムーズに身に付けられることが分かった。

2 表したいイメージが広がる授業づくり

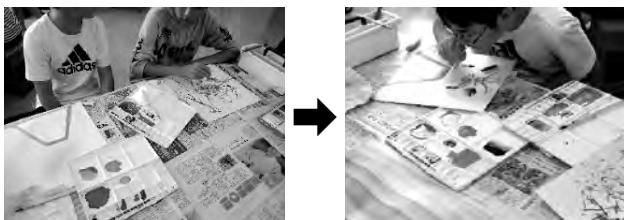
子供たちが自分のイメージを絵に表せるように、個別最適な学びと協働的な学びの視点から次のような手立てを行った。

(1) 個別最適な学びに向かうための手立て

ワークシートは自由度が高い形式にし、言葉から連想したことや、断片的なイメージなどを書き込めるようにした。大きさや形の違う画用紙を用意した。他の材質の紙や色画用紙など、選択の幅を広げすぎてしまうと子供たちが表現に迷うこともあると考え、今回は画用紙を選んだが、希望する子供には色画用紙も渡した。既習を生かし、小さい画用紙に描いた絵を組み合わせて表現する児童もいた。モダンテクニックを掲示し、自分のイメージを膨らませる助けとしたり、掲示した技法ができるよう用具の準備や場づくりを行ったりした。

(2) 協働的な学びのための手立て

表現してみたい詩歌を選び友人と交流することで、選んだ詩歌への思いをより明確にすることができた。放射状に配置した作業机の中心に、モダンテクニックができる場を準備し、友人の製作の様子が自然に目に入るようとした。友人の使っていた技法が「自分のイメージに合う」と感じた子が、やり方を聞いて取り組む場面も見られた。鑑賞の際は同じ詩歌ごとにまとめて掲示し、作品について話し合った。同じ言葉でも、様々なイメージをもてるこことや、そのよさに気付けた。



友達の取組を見て方法を聞き、自分の絵に生かしている様子

■成果と課題

1 成果

- (1) 系統性を意識してカリキュラムデザインをすることで、付けたい力を明確にし、次学年での学習に生かせることが分かった。
- (2) 様々な手立てのもと、子供たちは自分のイメージをもち、表現の方法を考えながら、絵に表すことができた。

2 課題

- (1) 短い文から表現することで、その文の全体を表そうとしてしまい、同じような構図の絵になることもあった。想像の広げ方がもう少し自由度があるようなものを次回は選びたい。
- (2) 子供たちの想像の広げ方を授業者がイメージしきれていない部分があり、ねらいから外れている児童に、適切な指導ができなかった。子供たちの表現を、予めイメージすることの大切さが分かった。

本題材は、「触ること」を通して身の回りのものの凹凸の面白さを鑑賞する題材である。写し取った形を媒介に子供同士が豊かに交流しながら、それぞれの児童が自分のイメージをいっそう膨らませていく、そんな感動と発見の授業を目指した。

でこぼこ はっけん！ ～身の回りはこんなに形にあふれている！ さわって写し取って感じよう !! ～

山梨大学教育学部附属小学校
加賀美 信行

■提案

1 題材について

本題材は、児童が発見した凹凸の面白さを粘土や紙に写し取って集めていく鑑賞の活動である。自分だけのコレクションを増やす喜びを味わうと同時に、視覚化されたその形とともに、児童同士が造形的な面白さを話したりしながら感動を共有し、いっそうイメージを膨らませていくことを期待した。



写真1：子供同士が見せ合い交流している場面

2 学習の流れ

- (1) 身近な物の凹凸の手触りに関心をもち、粘土を押し当てて写し取る方法を知り、粘土を押し当てて、凹凸の形を写し取って集める活動を行う。(2時間)
- (2) フロッタージュで集める方法を知り、写し取り集める活動を行う。(2時間)
- (3) 写し取った凹凸の模様をお互いに見合い、感じたことを交流する。(1時間)

3 本題材でイメージした子供の姿と手立て

(1) 感じる 場面

【イメージした子供の姿】

- ・身の回りのものの凹凸の面白さを発見している。
- ・凹凸の形を写し取ることを楽しんでいる。



写真2：フロッタージュを楽しんでいる姿

【手立て】

- ・様々な形の凹凸を見付けることができるよう、場の設定を工夫する。
- ・形を写し取る際には、凹凸を直接触ってみたり、どんな風に形が写し取られるか想像したりできるような声掛けを行う。

(2) 考える 場面

【イメージした子供の姿】

- ・軽量粘土の質感に触れたり、フロッタージュしたりする活動を通して、どの凹凸を写し取ったら面白そうか考えている。
- ・写し取ったものから新しい面白さを発見しイメージを膨らませている。

【手立て】

- ・指導者が事前に凹凸を粘土に写し取ったものを見せたり、「どこから取った形か」などクイズ形式で問い合わせたりして活動が一目で分かるようにする。
- ・身の回りの凹凸を自分のイメージしたように写し取ることができるよう、軽量粘土の大きさや厚み、粘土を押し当てる強さなどを調節したり工夫したりできるようする声掛けをする。

(3) 試みる 場面

【イメージした子供の姿】

- ・友人同士で写し取ってきた凹凸の形を見せ合ったり触ったりして、コミュニケーションをしながらその形を楽しんでいる。
- ・自分の発見した凹凸の面白さを友人に伝えようと、言葉を選んだりクイズ形式などにしたりして工夫している。

【手立て】

- ・集めた形を基に、児童同士が自由に交流できるよう促す。

■成果と課題

1 成果

- (1) 下の方まで見たり、覗き込んだりするなど、子供たちならではの視点で凹凸を見付けている姿が見られた。また、児童同士は写し取ったものを媒介に互いに交流する活動は、〔共通事項〕で示された「自分のイメージをもつこと」の指導に大変有効であった。

2 課題

- (1) ヴァーチャル機器の発達した現代において、子供たちは、「触る」という機会がもてずにいる。図画工作科の授業で、「見る」だけではない身体全体の感覚を働かせる鑑賞をいっそう充実させる必要を感じる。

子供たちが今まで出来てきた色や形・その組合せに視点を当て、絵の具を用いた作品づくり・鑑賞を行い、友人との関わりの中からさらに色や形・その組合せに関わる見方・感じ方を深めることを目指す授業。

味わおう！伝え合おう！ わたしの好きな色・かたち

長野県岡谷市立川岸小学校
久田 ひかり

■提案

1 題材設定について

クラス替えがあり、新しいクラスで新しい友人と出会った3年2部の子供たちだが、すぐにクラスの雰囲気に慣れ、休み時間も声を掛け合って遊んでいる。誰とでも話せるほどのおしゃべり好きな部分は課題でもあるが、対話型鑑賞では、そんな子供たちのよさが十分に發揮されるのではないかと考えている。本時を経て、子供たちの色や形の世界が広がり、今後より豊かな作品・言葉の表現につながることを願い、本題材を設定した。

2 学習の流れ

(1) 製作

①「絵の具大実験会1」(2時間)

材料に慣れ親しみ、既習の絵の具の使い方を組み合わせたり、さらに思い付いたことを試したりして、表し方を工夫する。

②「絵の具大実験会2」(1時間)

友人の作品から、すてきな色や形・組合せを見付け、見付けたことを基に工夫して表す。



「絵の具大実験会1」
製作時の子供たちの
様子と作品



「絵の具大実験会2」

導入部分の前時の作品鑑賞時の子供たちの様子

(2) 鑑賞

①「ぴったりな言葉は何か？」(1時間)

自分のグループの色かたちカードを鑑賞し、色や形、その組合せをもとに、色かたちカードにぴったりな言葉を考える。

②「ぴったりな1枚は？」(1時間)【本時】

他の班の色かたちカードを楽しみ、言葉にぴったりな色かたちカードを見付ける。

感じ取ったり考えたりしたことを友人と話し合いながら、自分の見方や感じ方を広げる。

3 提案の主となる授業の流れと児童の様子

(1) 導入

・本時の活動について確認。

「言葉カードを引く」

→「言葉にぴったりな色かたちカードを選ぶ」→「選んだ理由を伝え合う」

(2) 展開

①班ごとの鑑賞

②全体での鑑賞

(3) 終末

・本時を振り返り、ワークシートに感想と「なるほど！」と思った友人の考えを記入。

■成果と課題

1 成果

(1) 発見

・自分たちがつくった作品をカードとして用いたことで、つくった本人という立場でも思いもよらない考えが共有され、いろいろな見方を広げるきっかけになった。
・リーダーを経験することで、色と形をより意識することができていた。
・ワークシートに書くことで気付きを自覚することができていた。

(2) 感動

・自分の意見を受け止めてもらえること、自分のつくった作品について友人が語り合っていることが、子供たちの自己肯定感を高めるあたたかい時間になった。

2 課題

(1) 思い出したりかいたりすることが困難な児童の見取りをどうしていくか。振り返りでは、タブレットを用いて視覚的に簡易にしてもよかったかもしれない。

造形的な見方・考え方を働かせてつくった竹あかりを様々な場所で鑑賞することを通して、作品のその先を考えることにつながり、自分の作品を飾った経験が、将来の生活を豊かにする。

心をつなぐ 竹あかり

静岡県藤枝市立朝比奈第一小学校
柳内 志穂

■提案

1 造形的な見方・考え方を育む題材構想

(1) 竹を使った題材構想

子供たちにとって身近な存在であり、朝比奈地区の自慢でもある「竹」を使用して題材を構想した。地元の方に協力していただいて輪切りの竹を大小あわせて800個ほど用意し、竹のよさをさらに引き出すために「心をつなぐ 竹あかり」に取り組んだ。

(2) 年間計画や活動の場の工夫

題材を9月に行うに当たり、関連する題材を意図的に年間計画に配置した。そして、4月から子供の表れの記録を取り実態を把握し、それを踏まえ本題材で願う子供の姿を明確にしてから題材を構想した。また、少人数であることを生かし、教室の中でブルーシートを敷いて竹を広げたり、体育館でお互いの様子が見えるように半円形にテーブルを並べたりと、その時間で願う子供の姿に合わせて活動の場を工夫した。

竹を使い、年間計画や活動の場を工夫し、実態に合わせて題材構想を行う中で、子供たちは造形的な見方・考え方を働かせ、それが“発見”や“感動”につながった。第1時に竹と触れ合う中で「円じゃなくてちょっとへこんだところがある」「色も少しずつ違う」など、輪切りの竹の特徴を捉えていた。第2時では、どんな竹あかりをつくることができるのかアイデアをたくさん出す活動を行う中で、同じ「積む」でも、「二重に積む」「高さを変えて積み上げる」などいろいろな「積む」があることに気付いた。第3時では、ライトを配付することで、マスキングテープを貼って光の見せ方を変えたり、「隙間を意識して積む」に活動が変化したりした。第4時では、友人の発言から「隙間」という新たな視点を得て、あかりを増やさなくとも明るくなることに気付いた。また、鼈(のみ)や和紙などの新たな道具や材料を使用することにより、こだわりをもって表現したり新たな表現方法を見付けたりすることにつながった。友人の作品を見ながら製作し、よさを自分に取り入れる姿もあった。

しかし、新たな課題が生じた。第5時に相互鑑賞の時間を設定したが、子供たちは友人の作品を鑑賞しようとせず、自分の作品を修正したり、新たに作品をつくったりしていた。子供たちにとってここでの鑑賞は必要がなかったのだといえる。

2 自分や友人の作品のよさを実感する鑑賞

自分や友人の作品を見つめ直し、新たな“発見”と“感動”を

生み出すために、様々な場所で鑑賞を行った。

(1) 「柏屋の竹あかり展」への出展

竹あかりを、江戸時代に実際に旅籠として使用されていた建物内で展示した。歴史ある建物で展示した竹あかりはとても美しく見えた。

(2) 校内音楽会での活用

校内音楽会で、体育館を暗くして竹あかりを灯しながら演奏した。子供たちが製作した竹あかりが、演奏空間に幻想的な雰囲気を添えた。

(3) 冬休みに家で飾り、楽しむ

冬休みに作品を家に持ち帰り、自分の好きな場所に飾った。子供たちは、他の置物との兼ね合いや、使う方法を考えて飾る場所を決めていた。正月の飾りを意識して飾った子もいた。

(4) 岡部小学校で作品を紹介する

総合的な学習の時間の一環として、同じ中学校区の岡部小学校に竹あかりを持参して紹介した。竹あかりを紹介する原稿をつくる中で、改めて自分の作品と向き合っていた。また、原稿を友人と読み合い、アドバイスをする時間を設定した。声の大きさや読む速さだけでなく、「この言葉は分かりにくから変えた方がいい」など作品のよさが伝わるようにアドバイスする子もいた。当日は、岡部小学校の視聴覚室を暗くして、実際に竹あかりを灯して発表を行った。



左：柏屋の竹あかり展



右：岡部小での紹介

■成果と課題

1 成果

(1) 題材構想を工夫することにより、竹の特徴や組み合わせ方など、造形的な見方・考え方を働かせて製作に取り組むことができた。またその中で友人の作品を鑑賞し、よさを自分の作品に取り入れた。

(2) 様々な場所や形態で鑑賞を行うことにより、自分や友人の作品のよさを見つめ直すことにつながった。

2 課題

(1) 題材の中での相互鑑賞の方法については、子供の思考の流れに沿った方法で行う。

(2) 竹以外にも地域の材を使った教材開発をしていきたい。

みんながあまり知らない、でもやることはそんなに難しくない題材。そのような題材に取り組むことで、将来、未知の課題に取り組む時に役立つ、資質や能力を培う。試行錯誤しやすい題材を設定し、相互鑑賞を毎時間行うことで、主体的に課題に取り組めるようにした。

すごポップアップをつくろう

山梨県大月市立大月東中学校
百瀬 淳一

■提案

1 題材設定の理由

私は今を生きている生徒たちに、様々な経験の少なさ、特に失敗する経験、試行錯誤する経験の少なさを感じている。生徒は失敗をしないことが当たり前というような思い込みをもっているのではないだろうか。新しいものをつくりだすとき、失敗は当たり前で、試行錯誤する中で新しいものが生まれることを経験させたい。試行錯誤しやすく、さらに表現の可能性を広げられるであろう題材として、この題材を設定した。生徒の誰もが手探りなので、教室の中でたくさんの試行錯誤が生まれる。その経験をお互いに共有することで、将来、予想不可能な世界で役に立つ力を培うことができるのではないかと考える。



試行錯誤している様子

2 題材の概要

ポップアップカードの基本的な技法を使って、オリジナルの立体作品をつくる題材。はじめに、試作をたくさんつくり、基本的な技法からどんなものを作ることができるのかを探る。この段階で、生徒たちはたくさんの失敗とともに、発見を重ねる。その発見は感動にもつながる。その後、他の生徒の試作を見たり、意見交換をしたりしながら、試作を重ね、表現の可能性を広げていく。その中で、発見や感動がたくさん生まれる。後半は、発見した可能性を具体的に形にしていき、作品を完成させる。完成した作品は、実物投影機を使って、大きな画面に映し出し、説明を加えながら行う。この発表の場でも失敗を重ねつつ、発見と感動がたくさん生まれる。



相互鑑賞の様子

3 道具、材料について

道具ははさみ、材料は白い画用紙に限定した。比較的使い慣れていると思われるはさみに限定することで、作業しやすいと考えた。また、白色は視認性が高く、細部や形状がはっきり見えるので白い画用紙が生み出す光と陰影や動きに着目しやすくなる。そのため、試行錯誤が容易になり、その過程が授業の中心になるとを考えた。

■成果と課題

1 成果

- ・はさみに限定したことでの立体表現の工夫がたくさん生まれた。
- ・紙の中央部分をくり抜くための試行錯誤がたくさん行われていた。
- ・画用紙を白に限定したことでの形や動き、音など表現を深めることができた。
- ・紙同士をかみ合わせる、接着せずに重ね合わせるなど、接着する材料、道具がないことを克服するための試行錯誤が生まれた。
- ・「立ち歩きタイム」の中で充実した時間を過ごしていた。また、制作と鑑賞のバランスが良かった。集中力や意欲を高める効果があった。一斉に行うことで、意見交換を活発に行えた。
- ・書画カメラを通して発表することで、動きも見せることができた。
- ・工夫した点や動かし方、どこを見てほしいかなど、発表することができた。

2 課題

- ・生徒一人一人の実態が違うことを考えると、いつでも鑑賞できる体制をつくりたい。
- ・ピントやコントラストの調整に関して、カメラの使い方の指導が必要だった。

美術室には「先生、これでいい?」など正解を問うような言葉ではなく、「先生、これやりたい!」「こうするにはどうやるの?」という、表現したいことに向けた言葉があふれてほしい。個別最適な学びを通じて、思考力・判断力を働かせ、豊かな創造力を育む授業を目指した。

心みつめて~私らしい自画像~

東京都国分寺市立第一中学校
小林 奈央

■提案

1 題材の概要

本題材は、3年生となり進路や人間関係などの中で揺れ動く自分自身を見つめ、主題を『発見』し、表現する題材である。自画像は、これまで様々な表現方法が試されてきた。それは、最高学年としての自信と次の進路に向けての不安を併せもつ心の複雑さから、多様な思いが込められた表現が生まれる魅力的な題材だからだろう。自画像制作の『感動』とは、この複雑な心と向き合いながら、試行錯誤して表現しようとした、自分自身の思いを作品に反映できた喜びにあると考えた。これまで、指定された表現方法では思うように表現しきれない生徒も見られた。そこで、今回は表現方法を指定せず、その選択も生徒自身に委ねることとした。『発見』した主題とこれまで学んできたことを照らし合わせ、表現方法と適した材料を自分で選び取る。このことを通じ、思考力・判断力を働かせながら、『感動』を味わわせ、豊かな創造力を育んでいきたい。

2 指導の工夫



個別に表現を選択し、取り組んでいる様子

(1) 個別最適な学び

表現方法や材料は指定せず、主題に合わせ、写実か抽象などの表現方法から、紙や粘土などの材料、使い方を選択させることとした。生徒はその中で「つやつやにしたいが、どうしたらよいのか。」などの疑問を『発見』していく。教師は「ニスならある程度今の質感が残る。レジンならガラス越しのような感じになるが、どう表現したいのか。」など、新たな思考・判断の機会を与えていく。自分自身の思考・判断の繰り返しで、自分らしい自画像を完成させることで『感動』を感じることができるようにした。

(2) 表現方法を選べる環境づくり

1, 2年次に使用してきたものや新たに使用できるものなどの材料や道具を棚に収納し、生徒が自由に選んで活用できるようにした。記録材料を眺めたり、友人が使用している様子を見たりして、新たなアイデアや可能性を『発見』させた。

(3) ICT機器の活用

以下の場面でICT機器を活用した。生徒の活用場面②、③はオンライン上で共有することにより、他者の作品から『発見』できるようにした。

【生徒の活用場面】

①参考画像や情報の確認、検索、②アイデアスケッチ、③デジタルポートフォリオ（制作記録）

【教員の活用場面】

①資料の提示、②アイデアスケッチやデジタルポートフォリオ（制作記録）の確認と活用



写真や图形を使用したアイデアスケッチ

■成果と課題

1 成果

(1) 思考・判断・表現の深まり

表現方法の固定化は、制作の時間が「いかに上手に仕上げるか」に偏ってしまう場合がある。個別最適な学びを行うことにより、表現したいことに合った表現方法や材料などをその都度、思考・判断し、表現に反映させる姿が多く見られ、多様な作品が制作できた。

(2) 主体的・対話的で深い学び

個別最適な学びにより、やってみたい表現への挑戦や得意な表現での作品づくりができ、主体的に取り組む生徒が増えた。また、声の掛け合いや友人の作品を観察する機会が増えた。

2 課題

(1) 3年間を見通した指導計画

表現方法を選ぶ際、これまでの学びの中から思考していく生徒が大半である。小学校での学びを踏まえ、1, 2年次に多くの表現に触れられるよう3年間を見通した指導計画が必要である。

(2) 鑑賞作品の選定

多様な表現方法から表現を選ぶことができるよう、鑑賞作品も多様にしたいが、点数が多すぎると深まりに欠ける。鑑賞する作品点数と鑑賞の深まりのバランスを検討していくたい。

本題材には、生徒がこれまで取り組んできた表現手法にはない要素が多く含まれている。空間そのものをダイナミックに作品化するために、必然的に協働的な創作活動が生まれる。その過程で多様な感性や構想がぶつかり合い、生徒はたくさんの困難に直面するだろう。その中でも、自分一人では辿り着けない光景を生み出し、「美術ってこんなこともできるんだ!」という美術観が拡張していく経験の共有を試みた。他者と協働的にインスタレーションに挑戦し、日常の空間を変容させることを通して、自他の感性を解放し、美術表現に対する新たな価値観を見い出す生徒の姿を目指した。

インスタレーション ～空間を変容させる造形のダイナミズム～

新潟県新潟大学附属新潟中学校
丸山 広大

■提案

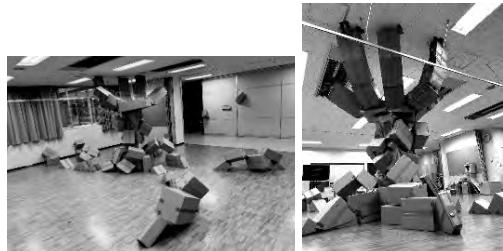
本題材で美術科の学びを深めた生徒の姿は、インスタレーションという表現手法の実践を通して、他者と感性や構想を交り合わせ、美術という営みがもたらすダイナミズムや、その可能性を実感し追求している姿である。

その姿に到達するために、教師が敷いたレールを歩かせて無難に成功体験へ導くのではなく、「越えるべき」「越えたい」と思わせる壁に生徒を出会わせる必要があった。空間をつかい、造形的な魅力や表現意図を練り上げる過程を、一人ではなく複数人で試行錯誤していくのは、言うまでもなく多くの困難が生じる。しかし、机上で個々の作品を制作していた時とは異なる、造形的な見方・考え方を交わらせる生徒の姿を捉えることができた。

生徒は『越後妻有 大地の芸術祭』で大規模なインスタレーション作品を鑑賞した後4つのグループに分かれ、ダンボールを素材とした表現に着手した。普段見慣れた校舎の風景を変容させる、10人の協働的な制作である。

あるグループは「3階=3年生」をイメージして構想を始めた。「最上級生は学校全体を支えている」というイメージから、「樹」をモチーフにしたい意見と、「手」をモチーフにしたい意見が対立していた。教師は、シュルレアリズムの「ダブルイメージ」の例を提示した。「どちらかひとつ」という考え方ではなく、「どちらとも捉えられる」という発想を提示したとき、生徒たちの空間表現はどのように拡がっていくのか。生徒たちは「鑑賞者によって手にも樹にも見えるような作品ができるのか」と模索を始めた。「掌が上を向いて天井を支えているように見せたい」「しかし強度の問題で現実的に可能なのか」「床に手をついているような表現にしたほうがよいのではないか」と、蛇行しながら制作が進んでいた。自分たちで役割を分担し、手(枝)に当たる部分と、支える幹の部分とを分けて効率よく制作に取り組んだ。随所で10人全員が集まり、進捗状況を確認しながら軌道修正を図っていた。教師は「今は彫刻作品が置いてあるように感じる。主題

としては空間がもつイメージから着想しているが、もっと物理的に空間を活用してみては」と助言した。生徒は「たしかにこの広い空間がもったいないね」とアイディアを出し合い、壁や床から樹の根っこが生えてうねっているような表現に辿り着いた。これはダンボールの素材実験を行った際に、他グループが制作した例を参考にしたものであった。



空間の特徴から着想した生徒たちの作品

■成果と課題

1 成果

本題材を始める前、ワークシートに「美術とは自己満足」と書いていた生徒Aは、最終的な振り返りで次のように自身の考えを整理した。

【インスタレーションをやるなかで、何度か対話することがあった。それによって作品の印象がガラッと変わることがあった。作者や仲間との対話が美術において面白いところだと思った。作者視点から見ても、自分の作品を見た人の感想で、印象が変わったと思った。対話せずにただ「見る」「つくる」だけなら、双方自己満足に過ぎないと思った。】

これまで、美術とは個の世界に閉じるものだと考えていた生徒Aが、他者との対話に価値を見い出している。

また、活動する中でクラスメイトと意見の衝突を繰り返していた生徒Bは、次のように振り返りを記している。

【本当に大切なのは、どうやって創ったか、どうして創ったのか、だと思う。私は題材の中でたくさんの対立を繰り返した。しかし、自分が描いていた作品よりもよかったです。思っていた作品ではないのに、なぜだろう。創っている中の対立でいやだと感じてしまうこともたくさんあった。でも創ってしまっていた。人と作品を創ることを通して、美術には人の心を大きく変えてしまうほど力があると知った。】

複数人のコミュニティで活動することが、生徒たちにとってより第三者の存在を意識させていたことも大きかった。他のグループの制作途中の作品に驚きの声を上げるなど、個々で制作をしているとき以上に、周囲からの関心や影響が色濃く表れていた。

2 課題

校舎を使った大規模な空間表現に挑戦する中で、いわば「必然的に」協働的な制作が発生していった。それによって得られた生徒たちの経験値は大きいが、安易に「みんなでやればいい」と流れてしまうのは危険である。今回、共同制作に振り切って実践したからこそ逆説的に見えてきた、美術における「個」と「コミュニティ」の在り方が、今後の実践における追究対象となる。

子供たちが将来、世界中にあるたくさんの作品に出会う時、造形的な見方・考え方を働きかせ、より深く作品と対話し、そのよさを存分に味わうことができる存在であってほしい。本題材では、印象的な作品との出会いや、問い合わせを基に仲間とともに語り合うことができる場面などを設定し、美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成する実践に取り組んだ。

「ピカソはなぜ、」

山梨県韮崎市立韮崎東中学校
秋山 菜穂

■提案

本題材は、パブロ・ピカソ（以下、ピカソ）の「ゲルニカ」の鑑賞を通して、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫、美術文化について考え、美意識を高め、見方や感じ方を深めることを目標としている。

題材名を「ピカソはなぜ、」としたのは、この言葉をキーワードに、「問い合わせ」をもって主体的に鑑賞を深められるようにしたいという思いからである。「ピカソはなぜ、ゲルニカを白黒で描いたのか」など、作者の表現に着目し、その意図や創造的な工夫などについて、それぞれの立てた問い合わせを基に、他者との交流の中で自分なりの答えを見付けられるようにした。

導入では、あえて作品を見せずに、作者と同じ境遇に置かれたと想定して、頭の中で「自分だったら、どのような作品を制作するか」をイメージさせるところから始まる。その後、作品をスクリーンに実物大で投影することで作品と出会わせ、そのスケールの大きさや迫力により“感動”を生むことを狙った。各々が想像との違いを感じることで、作品に対する問い合わせを生み、より作者の意図や思いに興味をもたせることができると考えた。



実物大の作品を鑑賞する様子

それぞれの抱いた思いを基に、仲間と自由に意見交換しながら、作品についての見方や感じ方を深めていった。グループごとに直接対話を通して鑑賞することもできるし、デジタル上では、それぞれの問い合わせを学習支援アプリ「ロイロノート」で全体に共有し、それぞれの考えを自由にカードにまとめて、やり取りすることができる環境を設定した。多様な視点や考え方をリアルタイムで情報交換し、たくさんの新たな“発見”を得て、見方や感じ方を深めることにつながった。

授業の終末には「この授業を通して、『ゲルニカ』は自分

にとってどんな作品となったか」を問い合わせ、授業の中で自分なりの価値意識をもって味わった「ゲルニカ」を自分なりに再定義することで、見方や感じ方がどのように深められたのかを振り返る展開とした。



作品との出会い



ICT端末による意見共有

*著作権保護のため作品にモザイク処理しております。

■成果と課題

1 成果

【感じる】実物大の作品を見せたことでピカソの思いの強さを実感させることができた。冒頭で「自分だったら」と想像させたことにより、自然と問い合わせをもたせることができた。

【考える】問い合わせを基にして、グループで対話を通した鑑賞に取り組ませたり、考えたことを1人1台端末で即時共有させたりしたことで、生徒は多くの考えに触れることができ、見方や感じ方を深めることにつながった。

【試みる】小グループとしたため、安心感をもって、それぞれが考えを伝え合うなど、積極的に言語化を試みる姿が見られた。様々な視点からの鑑賞を試み、見方や感じ方を深めることにつながった。

2 課題

他者の考えと自分の意見を並べるだけでなく、考え方の根拠を詳しく書かせたり、関連付けたりできれば、更に学びに深まりをもたせることができたと考える。題材を通して、造形的な視点から捉えることを意識し続けることができるよう工夫を取り入れていく必要がある。

本研究では、生徒が自分の考え方を再構築して、新たな考え方をもつことができる目的としている。見方や感じ方・考え方を深め、新たな自分の考えをもつことができるようになることは、一人一人の創造性を高めることにつながると考える。また、新しいものを生み出し、創造していく過程において、固定概念に捉われることなく、見方や感じ方・考え方を広げ、自分なりに価値付けていくことが必要である。このような生徒を育成するために、本題材では、他者の考え方に対する時間の充実を図り、新たな知識を習得し、自分なりの考え方をもつ場面を意図的に設定した。

謎だらけの鳥獣戯画 ～どう観る？どう考える？～

群馬県太田市立尾島中学校
藤島 奈未

■提案

本題材では、鑑賞作品として、「鳥獣戯画」を選んだ。鳥獣戯画は解明されていないことが多いため、生徒が多様な見方・感じ方・考え方をもつことができると思った。様々な諸説がある中で「鳥獣戯画には漫画らしさがあると思うか？」という発問に絞って授業展開を行なった。この発問に対して他者の考えに対する時間や、新たな知識を根拠として自分の考え方を再構築する場面を設定した。

1 導入

(1) 鑑賞作品と出会い、本時の見通しをもつ

本題材の導入では、ミニチュア絵巻物を1人一つ配付した。一人一人が鳥獣戯画の世界観に入り込み、興味・関心を高めることは、主体的な気付きにつながると考えたからだ。



▲ミニチュア絵巻物を用いた活動の様子

生徒は描かれているモチーフや墨の表情などを自由に発言することができていた。また、絵巻物に触れたことがない生徒も多く、その独特的な見方を体験できたことは驚きや感動・鑑賞する楽しさにつながっていた。

2 展開

(1) 現代の「漫画」の表現について考え、共通知識として得る

「鳥獣戯画には漫画らしさがあると思うか？」という発問に対する最初の自分の考えをもつために、現代の漫画表現の特徴を感じ取る活動を取り入れた。現代の漫画表現の特徴を

共有し、知識として得ることを通して、何気なく見ていた漫画は美術的な要素が組み合わさることで躍動感や臨場感が生まれていることに気付くことができていた。また、多くの生徒が「そのような表現が鳥獣戯画にもあるか？」という視点をもって作品鑑賞を行っていた。



▲現代の漫画表現について共通知識を得る様子

(2) 根拠をもった自分の考えを記述・発表する

一人一人が、自分にとっての漫画らしい要素について整理することを通して、発問に向き合い自分なりの考えをもつことができていた。

(3) 自分の考えを再構築する

最初の自分の考えをもった後、鳥獣戯画が描かれた時代を伝え、その時代背景を想像する活動を取り入れた。「文字がないから鳥獣戯画は漫画らしくない」と考えていた生徒は、その時代には文字が普及していないことを踏まえ、鳥獣戯画の中にある表現に再度視点を当てて考えるようになっていた。また、「文字は無いけれど、パラパラ漫画は現代では漫画とされている。動いて見えるし…」という友人のつぶやきを聞いた生徒は、鳥獣戯画の中にある漫画的な表現に焦点を当ててその特徴に気付き、考え方を変容していた。具体的には、擬人化された動物たちがユーモアあるポーズをしていることに着目し、「作者は、見ている人を楽しませるような表現をしている。鳥獣戯画を見て現代の漫画と同じように、楽しめたのかもしれない。この時代の人にとっては娯楽的な読み物だったのではないか、そう考えると漫画らしいといえる」という新たな考えをもつことができていた。

3 まとめ

まとめでは、擬人化の表現について取り上げた。現代の漫画表現にも受け継がれている驚きや感動を実感することにつながった。

■成果と課題

1 成果

- 他者の考え方や知識を知った後、再度自分の考え方をもつ活動を取り入れたことで、生徒の見方・感じ方・考え方方が深まり、自分の考え方を再構築して、新たな考え方をもてるようになっていた。
- ミニチュア絵巻物を1人一つ配付したことで、生徒が興味・関心をもって作品鑑賞ができていた。

2 課題

- 作品鑑賞する時間の充実を図るために、知識をどの程度提示するべきか、どのタイミングで提示すべきかについて考えていく必要があると感じた。

中学校の美術において、表現と鑑賞を相互に行き来する学びは、生徒の感性を広げ、表現力を深める上で大切である。第1学年で実践した2つの鑑賞授業を通して、生徒たちが造形的な見方・考え方をどのように深めたかを検証する。生徒にとって身近な「写真表現」と、異文化への興味・関心を高める「世界の仮面」を題材に、鑑賞が単なる知識の習得に終わらず、深い学びと自己肯定感につながるよう授業を設計した。特に、アートカードというツールを活用し、生徒の主体的な学びと、学びの連続性、生活や社会とのつながりを意識した実践を試みた。

・『映える（ばえる）』って何?
～写真表現の工夫を探る～
・なんでそんなデザイン?
～仮面が映す世界の文化～

栃木県宇都宮市立若松原中学校
木下 大輝

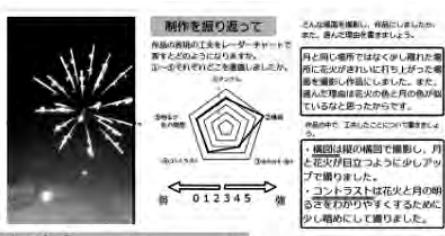
■提案

(1) 最初に取り上げたのは、写真の鑑賞授業である。導入に「映える（ばえる）」という生徒にとって身近な言葉を用いることで、生徒たちは興味・関心を示し、鑑賞への扉が開かれた。授業では、「構図」「アングル」「光」といった造形的な視点を基に、アートカードを活用して1つの作品に複数の表現技法が重なり合っていることに気付き、見方・考え方を広げていった。これは、今まで何気なく見ていた写真が、作者の表現と意図に気付く感動の瞬間となった。



アートカードを活用した鑑賞活動の様子

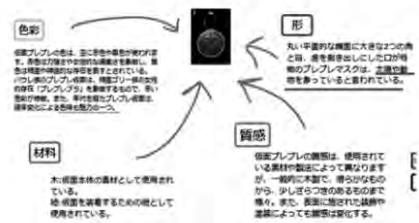
さらに、この鑑賞活動の学びを「私の映える1枚」という表現活動へと発展させた。生徒は授業で得た見方・考え方を自分の作品に活かしていた。作品が完成した時の達成感は、自己肯定感の向上につながった。振り返りでの「これまで意識していなかった工夫に気付いた。これから写真を撮る時にさらに意識してみたい。」という記述から、これまでの学びを生活につなげようとしていた。



生徒の作品と表現の工夫についてまとめた様子

(2) 次に取り上げたのは、「世界の仮面」の鑑賞授業である。

この授業では、生徒にとって身近に存在する「お面」から始まり、世界各国の仮面へと見方を広げた。アートカードを活用したマッチングトークでは、仮面の色や形、材料といった造形的な要素に着目し、それぞれの共通点を探った。その後、各自が関心をもった仮面について、造形的な特徴から使用目的、意味などについてICTを活用して調べる探究的な学習を行った。この活動は、物の形や色などの造形的側面を捉えるだけでなく、歴史的背景や異国の人々の願いや思いなどの文化的側面につながる深い学びへと発展した。調べた内容を他者と共有、比較し「仮面に込められた願いや思い」について活動の中で考察を深めていった。



「仮面」の授業 ホワイトボードにまとめた様子

■成果と課題

1 成果

2つの授業の実践は、生徒が「楽しい」と感じる活動を起点としてすることで、自己の学びを実感し主体的に表現や鑑賞をする自信を育むことができた。これは、「学ぶことが生活や社会をよりよくする」という美術教育の可能性を示している。「写真」の授業では、これまで意識していなかった「表現の工夫」に気付く発見が、これから的生活に活かそうとする意欲と自信につながった。「仮面」の授業では、造形的側面と文化的側面を結び付け考察する探究的な学習によって、異文化を理解する喜びを得ることができた。これら小さな発見と感動の積み重ねこそが、未来を生きる子供たちの自己肯定感を育む上で重要である。来年度の栃木大会テーマは「楽しいが続く創造の旅」である。美術教育は、単発の活動で終わるのではなく、生徒が自ら問いを立て、探究する過程で得られる達成感や学びの積み重ねが、次の挑戦への原動力となる。また、アートカードとICTを組み合わせた活動は、生徒の関心や対話を引き出し、授業全体に活気を生み、生徒が主体的に作品と関わり、「発見」と「感動」を重ねる上で有効な役割を果たした。

2 課題

「写真」の授業では、観点を多くしすぎたことによって、深まりが不足する場面が見られた。授業を通して、育てたい資質・能力をよく考え、観点を絞った授業づくりが必要である。「仮面」の授業では、仮面に込められた願いや思いを考察する時間が足りず、浅くなる傾向が見られた。2つの授業を通して、アートカードは美術の活動において有効なツールであると考えた。さらに他の場面での効果的な活用について研究する必要がある。

本校では国際バカロアプログラム(以下IB)を導入し、全6つのグループ(教科)の学習を展開している。芸術が選択肢として組み込まれており、美術を選択することができる。生徒が自らの創造的かつ文化的な可能性に挑戦することを通して、問題解決と独創的思考における分析的な能力を育むため、生徒とともに日々議論を重ねている。本研究大会において、IBの学習内容と学習指導要領との関連を明らかにし、美術の教育活動へ転換できる点と、これから社会生活に活かすことができる力を模索していくたい。

様々な文脈において必要とされる表現がなぜ生まれるのか?

山梨県立甲府西高等学校
天野 圭

■提案

IB美術における目標として「探究、調査、振り返り、創作活動を通して、自身を取り巻く世界の表現および美学の多様性に対する理解を深め、批判的な知識をもった芸術文化のつくり手、受け手となる。」という表現がある。これは、これから多様な社会においてどう生きていくのか、どのように対応し、よりよい生活を送っていくのか、という問い合わせに対する手立てとなると考えられる。

生徒たちを取り巻く生活環境はありとあらゆる情報で溢れかえっている。その情報の渦から必要な情報を選択し、いかに活用していくのかがこれからの社会を生きる上で必要な力であると考える。提案する本実践では、上記の力を育む上で、IBの批判的思考の要素に重点をおき、美術の立場から「見ること」に注目した。ある特定の物事を多面的に観察し、様々な要素から分析することで、深い洞察と分析力が身に付く活動を提案したい。

〈実践内容〉

本実践は上記IBの要素を踏まえ、高校1年生を対象とした美術Iデザインの鑑賞領域の題材である。普段何気なく目にしている様々なデザイン(飲料水のパッケージデザイン)に対し、形式的特性や様々な文脈における分析を試みた。時代とともに変化するデザインにはどのような要素が重なり合い、そのデザインに至ったのかについて、根拠をもって論じていく鑑賞活動である。

流れは以下の通りである。

①導入:スライドにて、様々な製品が時代によりどのようにデザインが変化していったのかを知る。同時に「文脈」の

意味を伝え、根拠の一助となることを理解する。

②展開I:デザイン鑑賞・考察(個人)。各時代の社会情勢やデザイン史などを調査し、各時代の製品におけるデザインの特徴についてワークシートに意見をまとめる。(Bring Your Own Device使用)

*生徒作成ワークシート例

2000-2010「時代背景」	2000-2010「デザインの特徴」
近年社会全体で環境にやさしいモノづくりが広まっていることから、企業の取り組みとしてもデザインを変えていかなければならぬといふ。また、人々の趣味として現代を生きる人は複雑なデザインよりもシンプルで分かりやすいものと好み傾向にあることがカラコンパクトでシンプルなものへと変化していったとも考えられる。	異年齢で受けたカルビーポテトチップスはおおきいのみならず、近年世界全体で普及しているSDGsという点も考慮しデザインをリニューアルした。具体的には、 ・パッケージフィルムのサイズを22mm短くする。 ・輸送に使う段ボールが縮小できることでトラックの使用回数も削減でき、 CO2排出量の削減につながる。 ・イクレバハイオラスキンキを使用する、Etc...
関連付けて考察した年代(10年毎でなくても良い)	

「デザイン」と「時代背景」との関連があると思われるものを挙げ、「根拠」をもってデザインの変遷を考察

カルビーポテトチップスのデザインについて、どうしたデザインはシンプルにならっていった理由としてはイクレバハイオラスキンキなどの技術的な面との関連もあると思うが、人々の趣味が折衷でわかりやすいものから、よりシンプルでわかりやすいものへと変化していくからだと思ったと考える。コンパクトにならった理由としては、ここ数年で社会全体の環境に対する向き合いが大きく変わった。SDGsなどに取り組んでいこうとうとする動きが高まっているためより環境へのやさしさに配慮したデザインへと変化していったと考えられる。

③グループ内で意見を交換し、デザインの変遷について考察する。(BYOD使用)

④グループ内で意見をまとめ、発表する。

*具体的な展開や活動内容については当日発表

*授業風景



■成果と課題

1 成果

今まで何気なく触れてきたデザインについて深く洞察することによって新たな気付きのあった生徒が多く見受けられた。また、表現とその背景の関係を結び付けることによって、表現に至る根拠を客観的に考察することができた。

2 課題

考察するデザインの選択肢が多かったため、選択に要する時間が増え、文脈との結び付きの分析が浅くなってしまう生徒が多数いた。また、グループ活動については、未知の意見に触れることができる点は成果といえるが、意見を集約し発表する活動については、集約が困難となり、多数決のような形で議論が終了してしまったという点は課題である。両課題とも目標を達成するための展開が必要であったと考えられる。

各都県 協議の柱

分科会	校園種	都県	協議の柱 1	協議の柱 2
1	幼・保	山梨	「出会い・関わり」を楽しむ造形あそび －感覚を通じた感性の芽生えを育てる－ 子供たちが身近な環境と出会い、感覚を働かせて関わっていく中で生まれる表現の始まりに注目し、感性の育ちを支える造形あそびの意義をさぐる	「感じ・考える」プロセスを支える保育のまなざし－主体性を育む環境との関わり－ 作品の完成ではなく、表現の過程に焦点を当て、子供たちの「感じる・考える・試みる」営みを引き出す保育者の視点と環境構成について考察する
2	小 造形遊び	山梨 中南巨摩	造形遊びにおける児童の発見と感動場面の見取り方法	高学年における造形遊びでの発見と感動をどのように引き出すか
		千葉	身近な形や色との出会いを通して、感動や発見を引き出す造形活動について	教科横断的な視点による、図画工作科と他教科の学びの融合
		茨城	材料の違いによる子供たちの主体的な造形遊びとは	子供たちの対話が生まれる造形遊びの環境(場の設定)の工夫
3	小 絵や立体、 工作	山梨 東山梨	子供たちがたくさんの発見や感動を手にするためには、どのような手立てが有効か	発見や感動が生まれる題材について
		埼玉	協働的な学びとして、手立て2グループ作りの形の提案があり、個別最適な学びと一体化を考えたときに重要になってくるので、図工における協働的な学びをどのように活用していったら良いか	児童が意欲をもって主体的に授業に臨むために題材(題材名)が重要な要素の一つだと思う「これはうまくいったな。」「これはもう少しだったな。」というものを話し合ってみる
		神奈川	学びの系統性を意識した題材づくり	子供の表したいイメージが広がる授業づくり
4	小 鑑賞	山梨 甲府	活動中に自然と生まれるコミュニケーションの時の子供たちの見取りについて	鑑賞の中での「発見」と「感動」をどのように引き出すか
		長野	子供たちが、形や色、組み合わせなどの感じを十分にとらえたり、形や色などの感じを基に自分なりのイメージを豊かにもりだりできる題材の工夫	子供の内にある気付きや思いを、言語として表出できるようにするための教師の支援
		静岡	地域の素材「竹」を活用した「竹あかり」に取り組み、作品を地域や行事で展示したことは、子供たちのこれからの表現や鑑賞、そしてその先の未来にどのように生きるか	本実践が、児童にとって「発見」と「感動」があり、付けたい力が身に付く授業であったか
5	中 表現	山梨 北南都留	子供たちがキラめく姿をうみだす手立てとは	美術が苦手な生徒がキラめく(取り組める)題材とは
		東京	自分らしさを『発見』する主題生成	美術の授業における個別最適な学び
		新潟	美術の授業にはどんな「コミュニティ」が生まれるのか？	「美術コミュニティ」があるからこそたどり着ける学びとは？
6	中 鑑賞	山梨 北巨摩	鑑賞の授業で「発見」や「感動」を生み出す工夫	見方や感じ方を深めるための手立て
		群馬	生徒の「発見」を促す手立てはあったか	生徒の「感動」を促す手立てはあったか
		栃木	アートカードを活用した授業づくり	表現と鑑賞の相互の関連を図った授業づくり
7	高	山梨	「感じ方を深める授業」を通して育まれた力は、将来どのような力となり得るのか	高等学校の創造活動で求められるものとは何か

大会のあゆみ
規約
組織
協賛企業

関東甲信越静地区造形教育研究大会のあゆみ

回	年	月	全国	開催地	大会主題
1	昭36	11		東京都中央区	図画工作科の実践研究発表
2	37	11		山梨県甲府市	たくましい心を育てる造形教育
3	38	8		新潟県高田市	造形教育の現状を確かめ、これからの志向を見出そう
4	39	11	○	栃木県宇都宮市	造形教育の実践を通じ豊かな個性を育てる
5	40	8		東京都台東区	科学と美術教育
6	41	6		千葉県千葉市	千葉県千葉市
7	42	10	○	新潟県新潟市	人間形成を目指す造形教育の現実的課題と解決策
8	43	11		茨城県水戸市	主体的活動を目指す造形教育の推進
9	44	10		群馬県高崎市	個性豊かな表現活動をねらう造形教育
10	45	7		埼玉県浦和市	今後の造形教育の基本的内容とその指導の研究
11	46	10		静岡県静岡市	たくましい創造力を育てる造形教育
12	47	6		山梨県甲府市	造形教育のたしかな授業をめざして
13	48	6		神奈川県横浜市	情報化時代における造形教育
14	49	8		長野県松本市	人間復活の美術教育
15	50	6		栃木県宇都宮市	造形教育における子どもと教師
16	51	11		千葉県千葉市	造形教育における今日的課題の解明
17	52	6		茨城県水戸市	明日をきりひらく子どものための造形教育
18	53	10	○	埼玉県浦和市	造形教育の本質にせまる実践はどうあるべきか
19	54	11		群馬県前橋市	豊かな人間性を育てる造形教育
20	55	11		静岡県沼津市	創る喜びを確かめる造形教育～授業を通してつくる喜びにひたらせよう～
21	56	6	○	新潟県長岡市	生きているあかしの表現～創る喜びのもてる造形学習～
22	57	10		山梨県甲府市	創るよろこびを味わう造形教育
23	58	10		神奈川県横浜市	明日をになう子どもの造形教育
24	59	10	○	長野県上山田市	心おどらせて取り組む造形
25	60	6		東京都豊島区	素材と創造者たち～教育における造形教育の重大性を問う～
26	61	10		群馬県桐生市	未来をになう子どもの造形～次代に生きる創造の高まりを求めて～
27	62	10		千葉県千葉市	子どもの心を掘り起こす造形教育
28	63	10		新潟県上越市	つくる意欲・感性……今、子どもたちと～創造の喜びを育む造形教育～
29	平元	10		平元静岡県浜松市	子どもの感性を研ぐ造形教育～自ら素直な表現を求めて～
30	2	10		茨城県水戸市	豊かに、人らしく、たくましく
31	3	11		埼玉県浦和市・川口市	感性を高め創造する力を育む造形教育
32	4	10		山梨県甲府市	豊かな感性をつくる喜び、生きる力
33	5	11		栃木県宇都宮市	豊かな心、伸びる個性、ひらく明日
34	6	11		神奈川県横浜市	いま、さらに豊かな感性・創造のよろこびを
35	7	11		長野県飯田市	いのちにあふれる造形教育～つくるよろこび自分らしさの表現を求めて～
36	8	10	○	東京都中野区	人間・表現・環境
37	9	11		群馬県前橋市	自分らしい造形活動を保障する教師の役割
38	10	11		千葉県千葉市	自分らしい発見・思いっきり造形
39	11	8	○	埼玉県大宮市・浦和市	自分“彩”発見～「自分さがしの旅」をしつづける子どもの造形活動～
40	12	8	○	静岡県富士市	開く造形教育に生き生き交流
41	13	11		茨城県水戸市	つくりだす力 かがやき いきる感性

42	14	11		新潟県新潟市	生きる力を培う造形教育 大地と大河と日本海からのメッセージ ~かかわり 発信 還元 そして 自信へ~
43	15	10		山梨県甲府市	「自立への道すじ」 ~豊かに感じ、自分を見つめ、造形に挑む~
44	16	11		栃木県宇都宮市・鹿沼市	ハート・ART ~風かよう夢広場~
45	17	11	○	神奈川県横浜市・川崎市	つくり続けるよろこび、それは生きるよろこび ~色と形のメッセージIからWEから~
46	18	11	○	長野県長野市	私っていいな! ! “いろ・かたち” 生きあい 学びあい
47	19	11		東京都文京区	人間形成としての造形・美術教育
48	20	11		群馬県高崎市	自分らしさ つくりだす力 いきいき造形
49	21	11	○	千葉県千葉市	きらめく感性 ときめく思い うみだせアート
50	22	8		静岡県静岡市	つくりだす喜びを培う造形教育 ~「みる」ことの再考を通して~
51	23	8		新潟県長岡市	つくる喜び みる楽しみ かかわる・つながる造形教育 ~「よさ」が広がる造形活動を求めて~
52	24	11		埼玉県所沢市	見つめよう 子どもの心 育てよう 確かな力
53	25	11		茨城県水戸市	人づくり しあわせづくり ゆめづくり
54	26	10	○	山梨県甲府市・南アルプス市・韮崎市	造形100年教育 ~わたしを俯瞰して見えるもの~
55	27	11		栃木県宇都宮市・さくら市	つなげよう 自分らしく生きる未来へ ~あふれる思い うみだす楽しさ つたえあう喜び~
56	28	11		神奈川県横浜市	「感じる つくる 生きる」 ~今をみつめ 明日を育む造形活動~
57	29	11	○	長野県佐久市・軽井沢町	私っていいな! つながる ひろがる アード “響・同・帯”
58	30	11		東京都葛飾区	みつめる つくりだす つながる ~未来をひらく造形教育~
59	令元	11		群馬県前橋市	出会い かかわり つながる造形
中止	2			千葉県成田市	『かかわる・つながる・つくりだす』 造形教育はこれからも未来をつくる ~身に付けさせたい力は何かを問う~
60	3	11		静岡県磐田市	「ときめき かかわり 未来へつなぐ造形」 ~自分の思いをもとに 豊かに表現する個~
61	4	11		新潟県(オンライン開催)	「未来につながる学びをひらく造形教育の今」 ~わたしをみつめる・わたしをひらく・美術をみつめる・美術をひらく~
62	5	11		埼玉県川口市	造形教育の新天地！ワイワイ埼玉Artlearntis
63	6	11		茨城県水戸市	「きめる、広がる 深まる」 ~造形活動を通して、子供の「育ち」とつながる~
64	7	11		山梨県甲府市	未来をひらく原動力=アートの力~ “発見” と “感動” のある授業づくりを通して~

○は全国大会併催

関東甲信越静地区造形教育連合規約

1. 本連合会は、関東甲信越静地区造形教育連合といい、事務所を理事長所属の所に置く。
2. 本連合会は、関東甲信越静地区の造形教育の振興を図り、各都県の親睦連絡を図ることを目的とする。
3. 本連合会は、東京都、神奈川県、千葉県、茨城県、栃木県、埼玉県、群馬県、山梨県、長野県、新潟県、静岡県下の各学校種別の造形教育研究団体をもって組織する。
4. 本連合は、その目的を達成するために、次の事業を行う。
 - (1) 本連合会としての研究協議
 - (2) 各都県間の研究活動の協力助成
 - (3) 造形教育振興を目的とする他の団体への協力
 - (4) その他連合が必要と認めた事業
5. 本連合会に次の役員を置く。
 - (1) 理事長 1名
 - (2) 副理事長 2名
 - (3) 理事 若干名
 - (4) 評議員 若干名
 - (5) 監事 3名
 - (6) 事務局長 1名
 - (7) 顧問 [前年度大会委員長または運営委員長]
6. 役員の任務は次のとおりとする。
 - (1) 理事長は本連合を代表し、業務を処理する。
 - (2) 副理事長は理事長を補佐し、業務の処理にあたる。
 - (3) 理事は本連合の運営にあたる。
 - (4) 評議員は理事を補佐し、各都県の研究団体との連絡運営にあたる。
 - (5) 監事は本連合の会計並びに事業を監査する。
7. 役員の選出は次のとおりとする。
 - (1) 評議員は各都県下の参加団体ごとに4名以内を選出する。
 - (2) 理事は各都県下の参加団体の代表者をもってあてる。
 - (3) 理事長・副理事長は理事の互選によってきめる。
 - (4) 監事は理事会において、評議員の中から選出する。
8. 役員の任期は1ヶ年とし再任を妨げない。
9. 会議は次の二つとする。いずれも出席者の合議によって成立し、理事長がこれを招集する。
 - (1) 評議員会年1回以上。
 - (2) 理事会必要に応じて開く。
10. 本連合会の経費は各都県の会費及び分担金、その他の収入をもってあてる。
 - (1) 会費各都県に年額2,000円
 - (2) 研究大会分担金10,000円
11. 本規約の改正は評議員の決議による。

12. 本規約についての細則は評議員会の議を経て定める。

本規約は昭和43年4月20日より施行する。

本規約は昭和58年10月27日に改正し同日を以て施行する。

昭和62年6月13日、会費2,000円に改正し同日を以て施行する。

平成1年7月3日、監事3名に改正し同日を以て施行する。

平成2年10月25日、会費3,000円に改正し平成3年度を以て施行する。

令和3年6月12日、会費2,000円に改正し、同日を以て施行する。

第64回 関東甲信越静地区造形教育研究大会 山梨大会運営組織

関プロ理事長
関プロ副理事長
関プロ事務局長

大会実行委員長	深澤 勉 甲府市立南中	
大会副実行委員長（各校種）	三枝 一哉 山梨市立岩手小	小田切 武 身延町立身延中
	浅沼 鎮雄 富士保育園	塩沢 和明 山梨県立甲府東高
	鈴木 信行 聖愛幼稚園	新野 貴則 山梨大学
研究アドバイザー	新野 貴則 山梨大学	伊藤 美輝 私立幼稚園連合会研究アドバイザー
	鷹野 敦貴 山梨県義務教育課	
総務部	五味 一也 莩崎市立菩崎西中	岩間 啓介 笛吹市立春日居小
会計	浅川 和子 南アルプス市立櫛形中	

各局責任者 ◎局長 ○次長

事務局	研究局	事業局
◎小林 茂晴 北杜市立高根西小	◎小田切 武 身延町立身延中	◎齊藤 宏明 笛吹市立境川小
○小俣 直喜 北杜市立甲陵中	○三枝 清美 山梨市立日下部小	○宮澤 宏明 笛吹市立芦川小

大会実行委員

事務局	研究局	事業局
塚原 英樹 南アルプス市立若草中	村松 弘子 富士川町立富士川中	百瀬 淳一 大月市立東中
浅川 和子 南アルプス市立櫛形中	市川 安紀 甲州市立塩山北小	早川 健彦 笛吹市立浅川中
中島 博美 甲府市立北中	古屋 ゆか 甲州市立塩山北小	守屋ますみ 甲府市立南中
高峰 佑季 河口湖南中組合立河口湖南中	赤池 文子 山梨県立甲府南高	三枝 陽 甲府市立池田小
秋山 菜穂 莩崎市立菩崎東中	風間功仁子 山梨県立白根高	角野蒼土郎 笛吹市立富士見小
清水 啓哉 北杜市立長坂小	石野公之輔 いづみ幼稚園	古屋美那実 山梨大学教育学部附属中
	清水由紀子 甲府市立新田小	深澤ひかり 甲府市立東中
	小澤 朋子 山梨市立山梨北中	

大会スタッフ

内藤寿美子 笛吹市立一宮北小	藤原 裕一 甲府市立甲運小	秋山 萌 甲府市立甲運小
岡田あさみ 笛吹市立御坂中	保坂 彩夏 甲州市立塩山北小	小山田理恵 甲府市立中道北小
井上 マミ 笛吹市立石和中	青木可奈子 甲州市立奥野田小	下村 未来 甲府市立山城小
中島 裕子 笛吹市立浅川中	渡邊 春菜 笛吹市立石和東小	茂木 葵 甲府市立相川小
廣瀬 美雨 富士吉田市立明見中	金丸 聖奈 笛吹市立一宮中	坂本 茂美 甲府市立東小
瀧澤 智子 北杜市立白州小	佐々木葵泉 富士吉田市立吉田中	丸茂佳奈子 甲府市立北新小
奥秋 由香 北杜市立高根中	川手絵里子 北杜市立長坂小	大畠 千恵 笛吹市立八代小
窪田 真敏 甲府市立北東中	松岡あすみ 甲府市立上条中	横山 弓香 甲斐市立双葉中
加賀美信行 山梨大学教育学部附属小	小泉 英樹 上野原市立上野原中	渡邊 美優 南アルプス市立甲西中
井澤映里子 甲府市立甲運小	数野 桂子 甲府市城南中	中込 由記 中央市立玉穂南小
小野 裕子 中央市立玉穂中	浅利かずみ 昭和町立西条小	田所 良通 南アルプス市立八田中
山下 英子 甲府市立相川小	菊島 美香 甲州市立塩山中	輿石貴代美 莩崎市立菩崎北東小
鷹野 晃 北杜市立長坂中	岩田乃江留 いづみ幼稚園	河西 藍 南西保育園
加藤 凜 南西保育園	天野 圭 山梨県立甲府西高	天野 未希 いづみ幼稚園
深堀 香 岩崎保育園	山本 裕子 山梨県立甲府東高	山田由美子 南西保育園
日原愛咲美 岩崎保育園		



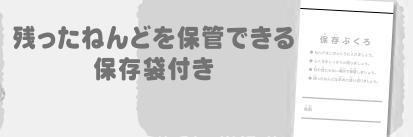
軽量紙粘土 きまび ねんど

詳細はこちる



先生に聞いた

ねんどの困りごとをとことん解決!



株式会社 サクラクレバス

東京 〒111-0052 東京都台東区柳橋2-20-16

TEL(03) 3862-3911(代)

色のなかまを活用してイメージに近づける作品作りができます。



日本色研トーン別いろがみ TONAL COLOR 68

高品質の紙とインキを使用。重ねて貼っても裏うつりしません。

12色相環
がつくれます!

トナルカラーでオリジナルの
PCCS 12色相環をつくるつくり
よ!

トナルカラー68色
配色の理解から応用まで、
色彩感覚を高めることができる いろがみ
B6判 68色組 —— ¥450(税込¥495)
B5判 68色組 —— ¥900(税込¥990)



日本色研事業株式会社

<https://www.sikiken.co.jp>

大阪支社 Tel 06-6242-6189 / E-mail osaka@sikiken.co.jp

東京営業所 Tel 03-5916-4116 / E-mail tokyo-e@sikiken.co.jp



オフィシャルサイト

©日本色研2024 ※PCCS (日本色研配色体系)は日本色研事業株式会社が著作権を有するカラーシステムです／禁無断転載

暮らしを明るくカラフルに
W Washin Paint

仕上げが楽しい 仕上げが大切

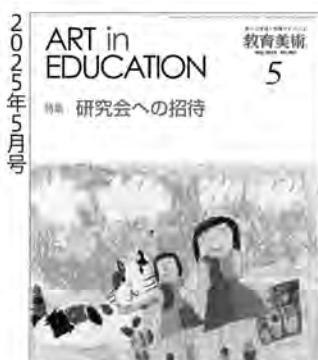


永年蓄積された専門メーカーとしての経験と技術を生かし、高品質で、人と環境にやさしい塗料づくりを行っています。

<http://www.washin-paint.co.jp>

W 和信ペイント株式会社

〒340-0121 埼玉県幸手市上吉羽2100-18
お客様センター: ☎ 0480-48-2725



美術教育とともに歩んで。 月刊 教育美術

1935年の創刊より、造形・美術教育の月刊誌として親しまれています。その記事は戦前から現代にかけて造形・美術教育の研究資料として活用されてきました。

今年、2025年10月号をもって1000号を迎えます。今後も、造形・教育美術の指導者のためにお役立ちいただけるように未来を見つめた価値ある情報を提供し続けたいと願っています。



1935年創刊。写真は第5巻12月号

図工美術教材
総合カタログ
ザ・教材
全ページ公開中

カタログ全ページタウンロード可能!
スマホ・タブレット・パソコンでみれます!
価格変更のお知らせや、
商品規格変更、廃止商品などの
情報発信しています。

てづくり
で
検索!
最新情報
ここ?
ここ?

美術工芸センターWEBサイト
てづくり横丁!

サイトに
飛びます!
↗



株式会社 美術工芸センター
<http://www.bijutukogei.co.jp>

○ ICT教育 ○



よくわかる図画工作科
ICT・プログラミング
活用事例集

岩本紅葉 著
2,530円 (本体2,300円)
B5判／112ページ

○ 特別支援教育 ○



実践から考える
特別支援教育のための
図画工作・美術の
授業づくり

高橋智子 著
2,200円 (本体2,000円)
B5判／128ページ

○ 国際理解教育 ○



グローバル市民を育成する
図画工作・美術の
授業づくり

中村和世 著
1,980円(本体1,800円)
B5判／136ページ



開隆堂出版株式会社

東京都文京区向丘1-13-1
tel 03-5684-6118
<https://www.kairyudo.co.jp>



リバーシブル 色紙掛けセット

536-767

¥506 (¥460)

《セット内容》台紙 (180kg上質紙385×335mm) 1、色紙奉書 (242×272mm) 1、ひも (約1200mm) 1、名札用紙1、説明書

日本画や水墨画、イラストなどを色紙に描いて手軽に飾れるセットです。穴加工済の台紙に1本のひもを通すだけで固定でき、何度も作品の出し入れができます。

動画でも
紹介!



新日本造形株式会社

www.snz-k.com

〒111-0052 東京都台東区柳橋2-20-16
TEL : 03-3866-8100 FAX : 03-3866-8130



第64回 関東甲信越静地区造形教育研究大会 山梨大会

KOMAKOMA×日文 の新バージョン

KOMAKOMA×日文 EXが登場！



←KOMAKOMA×日文EXはコチラから

以下の新機能を追加！

- ・途中のコマの削除、コマの複製、挿入などの編集機能
- ・fps の変更
- ・コマ数の上限：999 コマ
- ・撮影途中データの保存、活動の再開
- ・mp4 形式での保存

KOMAKOMA×日文も引き続きご利用いただけます！

展示ブースにてお役立ち資料配布中！



十人虹色 違うの楽しみかた

図画工作の先生方と美術系以外の専門家との対談を通して、図画工作の学びが社会や人生の中でどのように生きて働いているかを捉え直していきます。

第1話ゲスト：土井 善晴さん

第2話ゲスト：長田 庄平さん (チョコレートプラネット)

ブースでは、上記以外の資料も配布しておりますので、ぜひお立ち寄りください。

日本文教出版webサイトでは、各教科情報や、各種ダウンロード資料などを随時公開中！

[日文](#)

[検索](#)

お問い合わせは、小社ホームページ「お問い合わせフォーム」よりお願いいたします。

日本文教出版株式会社 <https://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社	〒558-0041	大阪市住吉区南住吉 4-7-5	TEL : 06-6692-1261
東京本社	〒165-0026	東京都中野区新井 1-2-16	TEL : 03-3389-4611
九州支社	〒810-0022	福岡市中央区薬院 3-11-14	TEL : 092-531-7696
東海支社	〒461-0004	名古屋市東区葵 1-13-18-7F-B	TEL : 052-979-7260
北海道出張所	〒001-0909	札幌市北区新琴似 9-12-1-1	TEL : 011-764-1201

NB 心が動く、その先へ。
日本文教出版

手や指で感じたままに描く

ゆべえのぐ



先生の使いやすさを考えたら、
こどもたちももつと自由になされました!

ぽてっとした軽い
触感で気持ちいい~

手形もとれます!

水にとかさず、手や指で触って
あそぶフィンガーペイント用えのぐ



単色 WHGT¥1,804 (税抜価格¥1,640)

8色セット WHG-8¥14,432 (税抜価格¥13,120)

あか

だいだいいろ

きいろ

きみどり

詳しくは
こちらへ

QRコード

あお

むらさき

ももいろ

しろ



安全性の高い原材料を使用しているので先生もこどもたちも安心!

●このえのぐは、EUが定めた玩具安全指令のフィンガーペイント基準であるEN71-7に適合しています。

EN71-7
基準適合

フィンガーペイントに関する玩具安全指令(EN71-7)
EUが定めた玩具安全指令EN71-7では、安心して子供が手でえのぐに触られる
よう、えのぐ等に対し、様々な要求事項が定められています。
このえのぐは、その要求事項を満たしています。

●国際玩具安全基準(ISO8124-3)に適合しています。

ISO
8124-3
適合

国際玩具安全基準(ISO8124-3)
国際標準化機構であるISOが定めた国際玩具安全基準のパート3(ISO8124-3)では、
子供が呑って飲み込んだ場合を想定して、重金属5元素に対して溶出量の基準値が
設けられております。この製品は、その基準値に適合しています。

●食品衛生法で指定されている「特定原材料」および「特定原材料に
準ずるもの」28品目について、食品アレルギー物質を含んでいません。

本品の原材料には下表のアレルギー物質は含まれていません									
小麦	そば	卵	乳	落花生	えび	かに	豚肉	鶏肉	牛肉
いか	さけ	さば	いくら	あわび	大豆	やまいも	くるみ	まつたけ	りんご
オレンジ	バナナ	もも	ゼラチン	キウイフルーツ	カシューナッツ	ごま	アーモンド		

●パッチテスト済 (全ての方に皮膚刺激がおきないということではありません)

※ボディペイント・フェイスペイントには使用できません。

※えのぐ中の水が表面に出てくる場合がございます。

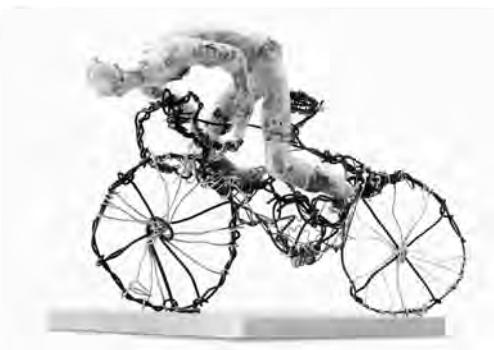
●その際は水を捨ててからお使いいただくと、ゆびえのぐ本来の感触が楽しめます。

祝 第64回 関東甲信越静地区造形教育研究大会山梨大会



ART BY

生徒作品ギャラリー「ART BY STUDENTS」では、
全国の中学校・高等学校の生徒作品を1500点以上紹介しています。

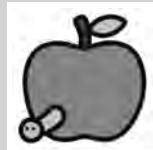


1

技法、テーマごとに作品を分類！



人物を表す



身近なものを表す



想像して表す



使うものの
デザイン・工芸



伝達のデザイン



写真で表す

* 探せるテーマは10以上！

2

全作品に作者の言葉を掲載！



光村図書

光村図書出版株式会社
〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9
電話: 03-3493-2111(代表) www.mitsumura-tosh.co.jp

ART BY
トップページは
こちらから



画材、額縁、学校美術教材のことなら
“総合画材ぺきん堂、へ！”
昭和21年創業。長年の実績と豊富な知識、品揃えで
お客様のお探しの画材をご提供致します。



〒400-0032 山梨県甲府市中央2-9-18
Tel: 055-232-3881(代) Fax: 055-232-3859
<https://www.pekindo.jp>

website



Instagram



X



オモシロくって、
役にたつ♪



「おすすめぞうけい」
発信中!



Instagram

@biiku_pocket



X

@biiku_pocket

季刊 春3月・夏6月・秋9月・冬12月

こどもによりそう
造形・美術教育誌

年間購読料2,240円(税込):各号560円×4冊/年

美育文化ポケット

検索



46



45



44

公益財団法人 美育文化協会
〒121-0813 東京都足立区竹の塚5-19-4 朝日生命足立ビル 1F
TEL:03-5856-6161 FAX:03-5856-6162 <https://www.biiku.jp/>

BSS 図工・美術 Support Creation

図工・美術教材を主軸に、画材、ホビー用品
約1万5千点の商品を掲載。見ているだけで心
がワクワクおどるカタログで、つくる楽しさ
をお届けします。



ECサイトもオープン！
PCやタブレット、スマホで注OK。
技法や商品情報も随時更新中！

※ご利用には会員登録が必要です。



◀ECサイトはこちら
shop.bijutsu.biz

〒178-0065
東京都練馬区西大泉5-29-15
電話 03-5947-6101
FAX 03-3867-3071

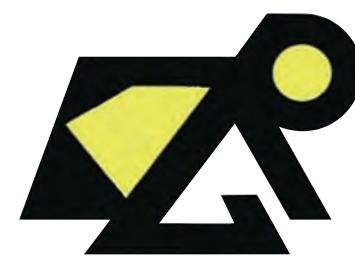
第64回関東甲信越静地区造形教育研究大会 山梨大会 紀要

発行日 令和7年11月15日

発行者 関東甲信越静地区造形教育連合 理事長 渋谷 里美

関東甲信越静地区造形教育研究大会山梨大会 実行委員長 深澤 勉

印刷所 株式会社 サンニチ印刷



主 催:関東甲信越静地区造形教育連合／山梨県造形教育連合
後 援:文部科学省／山梨県教育委員会／甲府市教育委員会／山梨県公立小中学校長会